

## 1.2 海外

---

### 1.2.1 英国

#### (1) 英国の制度の概要

##### 1) 概要

英国の高等教育機関は、教育の質を保証し、授与する学位、資格の水準についての責任を負っている。各教育機関は、これらの目的を果たすために、機関内部に独自の内部質保証プロセスを有しており、教育課程の計画・承認・監督・見直しや学生の学修到達状況に関するアセスメントなどが行われている。

また、各機関は、高等教育質保証機構（以下、QAA とする。）による外部評価・保証を受けることとされており、QAA は評価を通じて、各大学の水準・質の管理能力がどの程度信頼できるものか確認を行っている。

以下では、各機関における内部質評価の現状と、QAA による外部評価・保証の現状について考察を行うこととする。なお、英国は行政区域がイングランド、スコットランド、ウェールズ及び北アイルランドに区分され、各々質保証に係る制度が異なっているが、以下ではイングランドの事例に絞って考察する。

##### 2) 法令上の根拠

1992 年継続教育・高等教育法 70 条

##### 3) 実施主体

#### ①QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education、高等教育質保証機構)

英国の高等教育に対して質保証関係事業を総合的に行うことを目的として 1997 年に設立された。独立の組織として大学や高等教育カレッジからの会費を収入源とするほか、HEFCE との契約を通じて助成金を得て活動を行っている。QAA は、政府機関ではなく非営利の有限責任保証会社である。

#### ②HEFCE (Higher Education Funding Council for England、英国高等教育財政審議会)

同様の組織がスコットランド、ウェールズにもある。1992 年継続教育・高等教育法に基づき 1993 年に設立。政府省庁と高等教育機関との間の中間組織として機能している。

イングランドでは、HEFCE が、資金提供した大学について、教育の質が評価されることを確かめる法的な責任を負っている。HEFCE は、他の英国資金提供体(スコットランドの SFC、北アイルランドの DELNI とウェールズの HEFCW)と同様、QAA と契約を締結し、学問的な標準の維持を保証し、教育の質や学問的な支援を保証するための方法についての考案・適用を委託している。

すなわち、QAA は HEFCE に代わって、イングランドですべての公的資金を提供した高

等教育の品質をレビューする役割を担っており、英国の高等教育の質保証システムを構成する膨大な数のプロセスを通じて高等教育の品質を評価している。

③政府組織 BIS (Department for Business Innovation & Skills、ビジネスイノベーション技能省)

政府組織は高等教育全体の公共政策に対する責任を負っている。また、高等教育機関向けの公的資金の供給も行う。

#### 4) 評価目的

- ・学位・資格の水準ならびに高等教育の質の維持に関する学生や社会の利益を保護する
- ・学生の進路選択や雇用者の理解促進、および政策決定の基礎として、学術的な水準や質に関する情報を提供する
- ・高等教育の水準・質を管理し向上させる

#### 5) 評価の対象

すべての大学および高等教育カレッジは 6 年周期で受審する (イングランド・北アイルランド)。なお、別途中間サイクルレビューが中間年 (3 年経過後) に実施される。

(※2013-14 年度から始まる高等教育レビュー (Higher Education Review) では、リスクアプローチの考え方が導入されており、過去に問題のない評価を 2 回以上受けている教育機関は 6 年サイクル、そうでない教育機関は 4 年サイクルで受審することとされている。)

(2) 大学評価において活用されている評価指標及び評価指標の具体的な内容

### 1) 概観

英国における高等教育に係る質保証システムとして、以下の4つの施策をあげることができる。

- ① 高等教育機関の教育評価：QAAによる高等教育レビュー
- ② 英国高等教育のための質規範（UK Quality Code for Higher Education）
- ③ 教育情報の公表：大学の成果指標（Performance Indicators）及び課程ごとの情報の一元的なウェブ情報開示（Unistats）
- ④ 「全国学生調査」（National Student Survey）：最終学年の学生に対して満足度を含む意見を求める質問調査

各高等教育機関は、「②英国高等教育のための質規範」に従って大学の質を自ら管理するとともに、授与する学位・資格の価値を保護するための内部質保証の活動を行っている。

外部評価機関であるQAAは、HEFCEとの契約に基づき、英国高等教育のための質規範等を参照基準として、「①高等教育機関の教育評価」を行う。

「③教育情報の公表」も英国の質保証システムの一翼を担う。高等教育への進学希望者等に対して、進路選択の際の支援を行うものであり、現在Unistatsというウェブサイトで公開されている。

「④全国学生調査」は、2005年度より実施されている全国的な取り組みである。同調査では、各教育課程に対して学生のフィードバックを行うことを目的として、最終学年の学部生等を対象に、全国統一の質問紙により実施するものである。

以下では、これらの大学評価について個別に検討することとする。

### 2) 外部評価機関による学修成果の評価

#### ① 「英国高等教育のための質規範」に基づく質保証

前述のとおり、英国では、高等教育機関による「内部質保証」に対するガイドラインとして、「英国高等教育のための質規範」と呼ばれる参照基準がQAAによって開発されており、事実上の規制力を持った規範として機能している。

英国高等教育のための質規範には、本調査のテーマである学修成果の把握と評価に関する規定も置かれており、各教育機関が教育制度を設計する際に、質規範を常に参照することで、学修成果を把握し内部的に評価することが自律的に行われる仕組みとなっている。

なお、従来、「アカデミック・インフラストラクチャー」と呼ばれる内部質保証のためのガイドラインが存在したが、2009年～2010年にかけてこれを見直し、内容を改正するとともに、新たな内容を追加し、全体の構成を再編し、「英国高等教育のための質規範」へと改定したものがその規定である。2011年12月に同質規範が公表され、2012年秋から施行され

ている。

英国高等教育のための質規範は、パート A：アカデミックな水準の最低基準の設定及び維持 (Setting and maintaining academic standards)、パート B：アカデミックな質の保証及び向上 (Assuring and enhancing academic quality)、パート C：高等教育の提供に関する情報 (Information about higher education provision) の 3 章から構成されており、詳細な章構成は下記のとおりである。[10]

- パート A：アカデミックな水準 (アカデミック・スタンダード\*1) の最低基準の設定及び維持  
アカデミック・スタンダードの設定および維持に関連する事柄をカバーしている。
  - A1：全国レベル
  - A2：科目・資格レベル
  - A3：プログラムレベル
  - A4：承認およびレビュー
  - A5：外的影響
  - A6：学修成果の達成アセスメント
- パート B：アカデミックな質 (アカデミック・クオリティ\*2) の保証及び向上  
学習機会の質について、期待に応える内容となっているとともに、継続的に改善されていることを保証することに関連する事柄をカバーしている。
  - B1：プログラム設計、開発および承認
  - B2：入学選抜
  - B3：学習と教育
  - B4：学生サポート、学習資源、キャリア教育、情報、アドバイス、ガイダンス
  - B5：学生参画
  - B6：学生アセスメントおよび事前学習認定
  - B7：学外審査
  - B8：プログラムのモニタリングおよびレビュー
  - B9：不服申し立て
  - B10：共同教育の管理
  - B11：研究学位
- パート C：高等教育の提供に関する情報  
教育の提供者が目的に適し、アクセス可能で、信頼できる、利用可能な情報をどのように作るかを  
取り扱う。

このうち、学修成果の評価に特に関連する部分は、「A6 学修成果の達成アセスメント」および「B6 学生アセスメントおよび事前学習認定」である。

\* 2014 年 8 月以降のレビューについては改定後のガイダンスが適用予定であり、以下の体系に見直される予定である。

- A1:アカデミック・スタンダードに係る英国と欧州の参照ポイント
- A2:アカデミック・スタンダードに係る学位授与主体の参照ポイント
- A3:アカデミック・スタンダードの保証と学位授与の成果指標ベースアプローチ  
(用語について)

\*1 アカデミック・スタンダード

コース修了、学位・資格取得にあたり、学生に要求される最低限の到達レベル。

## \*2 アカデミック・クオリティ

高等教育を提供する側が、学生の学習を支援する質。学習支援としては、ティーチング、学習サポート、どのように成績評価されるのか、学習のための施設やツールなどを指す。

### ②分野別ベンチマーク・ステートメント

「分野別ベンチマーク・ステートメント」(Subject Benchmark Statement)は、QAAが高等教育関係者の協力を得ながら、学問分野(学士課程の場合、57分野で策定)ごとに、分野特有の知識・能力及び汎用的スキル等を特定(知識・スキル等をいわばCan-doリストの形で列挙)し、その実現のための教授・学習・評価について記述するとともに、これらの能力等について学士の学位に要求されるベンチマーク基準を設定したものである。我が国において文部科学省の依頼を受けて日本学術会議が策定する「教育課程編成上の参照基準」のモデルとなった。[11]

「学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 2012年3月」で紹介されている、法学(Law)分野のベンチマーク・ステートメントにおいて列挙されている能力等を例示する。[12][13]

#### ア. 分野特有の能力 (Subject-specific abilities)

##### (1) 知識 (Knowledge)

以下のような法制度の基礎的な知識・理解を示すことができる。

- ・当該法制度の主要な概念、価値、原則及びルールに関する知識を示すこと
- ・当該法制度の主要な法制機関及び法手続きを説明できること
- ・当該法制度の何らかの実質的な領域の文脈において深く学習したことを示すこと

##### (2) 応用及び問題解決 (Application and problem solving)

複雑すぎない状況に知識を適用し、具体的な問題に論拠ある結論を出す基礎的な能力を示すことができる。

##### (3) 情報源及びリサーチ (Sources and research)

以下のことを行い得る基礎的な能力を示すことができる。

- ・リサーチを必要とする課題を正確に特定すること
- ・紙媒体や電子媒体の情報源を使って、最新の法的情報を特定し、持ってくる
- ・調査対象となっているトピックにとって妥当な法的情報源(一次資料及び二次資料を含む)を使用すること

#### イ. 一般的で転用可能な知的スキル (General transferable intellectual skills)

##### (1) 分析、総合、批判的判断及び評価 (Analysis, synthesis, critical judgement and evaluation)

以下のことを行い得る基礎的な能力を示すことができる。

- ・様々な項目や課題を妥当性や重要性に関して認識して順位付けること
- ・様々な情報源から情報や資料を持ってきて総合すること
- ・あるトピックに関連する教義や政策のイシューを総合すること
- ・特定の議論のメリットに関し批判的判断を行うこと
- ・いくつかの解決策の選択肢を提示し、それらの中から論拠ある選択を行うこと

##### (2) 自律性及び学習能力 (Autonomy and ability to learn)

あまり指導を受けなくとも、以下のことを行い得る基礎的な能力を示すことができる。

- ・既に学んだ法学の領域における業務の計画及び取組の際に自立した行動を取れること

- ・学習したことのない法学の領域において、標準的な法的情報源から自立したリサーチに取り組めること
- ・自身の学習について省察し、フィードバックを求め活用できること

#### ウ. キー・スキル (Key skills)

##### (1) コミュニケーション及びリテラシー (Communication and literacy)

口頭及び文章の両方において、以下のことを行い得る基礎的な能力を示すことができる。

- ・法的な事柄に関し、熟達したレベルの英語を理解し、使用すること
- ・他者に理解可能かつ他者の関心に向けられた方法で、知識又は議論を提示すること
- ・技術的で複雑な言葉で書かれた法的資料を読解し、議論すること

##### (2) 数的能力、情報技術及びチームワーク

以下のことを行い得る基礎的な能力を示すことができる。

- ・妥当な場面で議論の基礎として数的又は統計的な形態で提供された情報を使用、提示し、評価すること
- ・ワープロで小論その他の文書を作成し、適切な様式でそのような文書を提示すること
- ・インターネット及び電子メールを使用すること
- ・電子情報をダウンロードするシステムを使用すること
- ・グループの仕事に効果的に貢献する一員として、グループで作業すること

(出典 学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 2012年3月 国立教育政策研究所 P78-P80) [12] [13]

### ③英国高等教育のための質規範における学修成果の評価

英国高等教育のための質規範は、A6章「学修成果の達成アセスメント」において、学修成果についてのガイドラインを定めている。学修成果の達成アセスメントについて、英国高等教育のための質規範は以下のような期待事項 (Expectations) を示している。[14]

「高等教育機関は、学生の評価が合理的で信頼に足ること、また学位の授与および単位の付与が意図した学修成果の達成に基づいて与えられていることを確実に実行する必要がある。」

また、英国高等教育のための質規範の中で、学生アセスメント (評価) について直接的に規定している章が、B6章「学生アセスメントおよび事前学習認定」である。本基準は2013年10月に発行されており、2014年8月以降に実施される、QAAによるレビューにおいて参照基準とされる予定である。

内容については、旧基準である、アカデミック・インフラストラクチャーの行動規範「Code of Practice」におけるセクション6「学生の成績評価」を引き継ぐ内容となっている。

同基準において、期待事項及び指標 (Expectation and Indicators) が提示されており、評価指標をあげると以下のとおりである。[15]

#### 期待事項 (Expectations) :

高等教育機関は、公正で、法的に有効で、信頼性の高い評価プロセス (事前学修の認定を含む) を運用する。この評価プロセスによって、全ての学生が、単位または資格取得といった意図した学修成果を得ることを証明することができる。

指標：

**Indicator 1**

高等教育機関は、個々の単位や資格の授与のためのアカデミック・スタンダードが適切な水準で厳密に定められ、維持され、スタンダードに照らし学生のパフォーマンスが公平に評価されていることを確かめるための効果的な評価方針や規則、手続を実行すること。

**Indicator 2**

事前学習の認定を含む評価方針や規則、手続はすべての意図した読み手に対して明示的で透明性があり利用可能であること。

**Indicator 3**

事前学習の認定要件を満たす者が、その機会を認識し、申込から認定までサポートされること。

**Indicator 4**

高等教育機関は、事前学習や付随する評価プロセスを含む学生の作業の評価に関わる人すべてが、役割や責任を引き受けるのに十分有能であることを保証すること。

**Indicator 5**

評価とフィードバックは、専門実務、科目の特性、教育的見地を考慮・反映して通知されること。

**Indicator 6**

学術的判断がなされる基礎について理解の共有を促進するため職員と学生が対話を行うこと。

**Indicator 7**

学生に、その理解や論証に必要なスキル、良好な学術経験を伸ばす機会が与えられていること。

**Indicator 8**

学生が意図した学修結果を得ることが出来るような、量、タイミング、評価であること。

**Indicator 9**

評価に対するフィードバックは建設的・発展的なものであり、適時に行われていること。

**Indicator 10**

要求水準を満たし、学生個人の諸事情も勘案した達成可能な評価の仕組みを通して、全ての学生が目標を成し遂げることができる機会が平等に与えられていること。

**Indicator 11**

評価は確実性が担保されていること。

**Indicator 12**

学位授与主体は、英語以外の言語で評価を実施した結果であっても、学位授与の基準は英語で実施された場合と同様に取り扱われることが保証されていること。

**Indicator 13**

採点評価や採点の緩和にかかるプロセスは、明確にされ、継続的に運用されていること。

**Indicator 14**

高等教育機関が、許容できない学術行為について、中止したうえで、その内容を特定・調査し、対応する運営プロセスとなっていること。

**Indicator 15**

学位授与主体は、事前学習の認定の取扱いを含め、構成員、手続、権限、試験委員会や評価委員会の責任を明示していること。この情報が委員会のメンバー全員に共有されること。

**Indicator 16**

試験委員会や評価委員会は、公正にかつ一貫して、プログラムや単位や資格授与の規則を適用すること。

Indicator 17

試験委員会や評価委員会の決定は、正確に記録され、定まった期限内に適時に学生に伝えられること。

Indicator 18

学位授与主体は、評価方針・規則、手続を計画的に、評価・改善していること。

④QAAによる大学評価手法の改革

ア. 機関レビューへの移行

QAAは、2010年10月から11月にかけて行った評価方法の詳細に関する協議を経て、2011年3月、「機関監査」(Institutional Audit)に代わる「機関レビュー」(Institutional Review)に関する最終文書を発表し、「機関レビュー」が2011年9月から施行されている。

QAAによると、新しい「機関レビュー」は、従来の「機関監査」と比べ、以下のような特徴を持っている。[13]

a. 学生中心の質保証

レビューチームはより多くの学生と会い、学生からの情報を一層重視する。レビュー後の行動計画の作成に学生が参加する。従来とおり、レビューチームメンバーに学生が参加する。受審大学は学生代表を任命し、コーディネートに貢献させる。

b. 柔軟性

レビューは、各機関の水準・質等の判定に繋がる「コア」部分と、年度ごとに設定され高等教育セクター全体に対する勧告等に繋がる「テーマ」要素(2011-12年度は初年次学生の経験)から成る。6年ごとのサイクルを硬直的に守るのではなく、早急な対応の必要に応じた調整を可能にする。機関監査時代の訪問調査の20週間後ではなく、12週間後には報告書を公表する。

c. 明瞭性と簡潔さ

大学だけでなく学生や公衆も読みやすい報告書にするため、判定の言葉遣いをより明瞭にするとともに、報告書を短くし、公衆向けの要約を付ける。

d. 情報公表の重要性の明確な認識

入学志願者・学生向けの情報を含め、情報公表を評価対象とし、公表された情報の質に関する判定を報告書に記載する。

e. アカデミックな水準の最低基準の公衆への保証の強化

判定を明瞭な表現で明示する。「水準」については、英国の最低基準を満たしたか否かの二者択一とする。「質」及び「向上」の判定は、4段階の判定を行う。これらの判定をウェブ



サイトでも明示する。

#### f. 事務負担の軽減

訪問調査は、機関監査時代の3日間ではなく、1日半に短縮する。電子データによる文書提供を行う。テレビ会議を積極的に利用する。

(出典 学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 2012年3月 国立教育政策研究所 P89-P90) [13]

#### イ. 高等教育評価 (Higher Education Review) への移行

QAA が実施する新たな評価方法として、「高等教育評価 (レビュー) (Higher Education Review)」が 2013-14 年度から開始されることとなり、教育機関向けのハンドブックが 2013 年 6 月に公表された。

対象機関は、イングランドと北アイルランドのすべての QAA 会員、及び QAA の会員ではないが HEFCE からの資金提供を受ける教育機関である。なお、イングランド及び北アイルランドにおいて、現在 QAA が実施している評価方法は、この高等教育評価 (レビュー) に統一される。

新たな評価方法の主な目的は、以下にあげる高等教育セクターに期待される事項を、教育機関が満たしているかどうか、学生や一般大衆に広く知らせることである。

- ・教育水準の設定・維持
- ・学習機会の提供
- ・情報の提供
- ・学生の学習機会の質の向上

高等教育評価 (レビュー) は、柔軟かつリスクベースの手法をとる。

リスクベースの手法とは次の内容をいう。

- ・教育の質と水準の保証について過去に問題のない評価結果を 2 回以上受けている機関は、評価サイクルを 6 年とする。
- ・教育の質と水準の保証について上記に当てはまらない機関は、評価サイクルを 4 年とする。
- ・機関の自己評価書等の書面審査に応じて訪問調査期間を決定する (1 日～5 日の間)。高等教育評価 (レビュー) においても、学生は、QAA のピアレビューチームの正式なメンバーとされる。また、学生は学生としての意見書を作成したり、訪問調査時にレビューチームと懇談したり、レビュー結果に応じた教育機関との取組みに参加する。

### 3) 高等教育に関する情報の公表

英国高等教育のための質規範のうち、高等教育の提供に関する情報は、すべての高等教育機関が満たすことを要求し、学習機会の提供に関連する期待水準を提示している。「高等教育機関は学習機会についての情報を意図した受け手のために作成する。それは目的に合致し、当該情報にアクセス可能な信頼できる情報である。」

この情報は「社会全般、将来の学生、現在の学生、卒業生、アカデミック・スタンダードと品質に対する責任を有する者のためのもの」とされている。

HEFCE の公表物 (2011/18) では、教育機関がすべきことを以下のとおり明確にしている。

- ・学部の学習過程毎にフルタイム学生かパートタイム学生のいずれにせよ、Key Information Sets(KIS)を開示する必要がある。KIS には学生満足度、卒業生の成果、学修教育活動、評価手法、授業料、学生への資金提供、専門的認証が含まれる。
- ・Wider Information Set(WIS)の情報提供

#### ①全国学生調査 (National Student Survey)

全国学生調査は、高等教育機関における大学と大学生に学習経験について、彼らの意見を述べる機会を与える年次調査である。調査対象の学生は、最終年次の学生が多い。

全国学生調査は、3つの機能を有している。具体的には、学生の意思決定に情報を提供し、品質保証の役割を果たし、学生の学習経験の強化の助けとなる。

学生は「まったく同意しない」から「強く同意する」までの5段階評価で回答する。回答結果は教育機関や受講したコースの評価を行う学生に伝えられる。例えば、質問内容には下記のような内容が含まれる：

- ・受講したコースで学んだこと
- ・評価とフィードバック
- ・アカデミックサポート
- ・組織と経営
- ・学習資源
- ・自己啓発

学生は、予め定められた質問事項に回答し、それ以外の質的なコメントを行う。これらの情報を元に、学生の学習経験を高めるための施策の効果の評価することや、機関の強い分野、弱い分野を特定することを可能にする。

全国学生調査の最近のレビューによれば、全国学生調査は品質の直接的な評価基準ではないが、学生からの意見を直接回収する方法であり、内容に偏りがあるかもしれないものの、調査データの分析は、その手段の安定性とそれが評価する学生経験の程度という、概念上の有効性を示した。

全国学生調査のデータは League table および Unistats ウェブサイトで使われており、有望な学生のための主要な情報源となっている。全国学生調査のスコアについては、ウェブサイトにおいて、少なくとも 23 人の学生がアンケートに記入することが必要であり、そのコース全ての生徒の少なくとも半数が回答する必要がある。学生数が 23 人未満の場合は、彼ら全員が全国学生調査のアンケートに記入したとしても、データは公表されない。

あるケースでは、学科課程の人数は公表のための基準を満たすように統合されることもあり、ある学科課程においては目的に適合した関連データが把握できないこともある。学部が新設された場合は、それに関する情報はまだ利用できない場合もある。

#### 全国学生調査は、授業の品質や学修習成果の評価について何を示しているか

評価の品質とタイムリーさは、常に学生と大学間の摩擦の原因となりうる。全国学生調査において、評価の質が悪くまたタイムリーでない場合は学生から一貫して低い評価を受けていた。2010 年のデータによると、10 人の学生のうち 6 人弱は、評価が迅速になされていると回答し、一部の学生は、評価とフィードバックが彼らの理解の助けになったとのことである。

全国学生調査のレビューから、オークリーとスタッフォードシア大学の報告で、授業の質についての情報が有用であると学生が考えていることが明らかになった。しかし、現在まで、有望な学生が全国学生調査の結果を使うという証拠はほとんどなかった。

2013 年度における全国学生調査結果における満足度の回答状況は以下のとおりである。

Questions		2012	2013
1-4	教育内容 (The teaching on my course)	86%	86%
5-9	評価とフィードバック (Assessment and feedback)	70%	72%
10-12	学習支援 (Academic support)	79%	80%
13-15	組織運営 (Organisation and management)	77%	78%
16-18	教育環境 (Learning resources)	82%	84%
19-21	人材開発 (Personal development)	81%	82%
22	全体満足度 (Overall satisfaction)	85%	85%
24	学生組合 (Student Union)	66%	67%

出典 : HEFCE Home Page/Student satisfaction at a nine-year high (12 August 2013)

(<http://www.hefce.ac.uk/news/newsarchive/2013/news82928.html>) [16]

## ②Unistats /KIS

Unistats は、英国の大学と大学課程に関するデータおよび情報を検索して、それを比較することができる公式サイトである。

2005 年から実施されている全国学生調査の調査結果は HESA（高等教育統計局）のデータ等とあわせて Unistats において大学間の比較が可能な形で公表されている。さらに、2012 年には「主要情報一覧(Key Information Sets : KIS)」という重要な指標群が設定され、Unistats は KIS を中心としたものへと再構築された。

ウェブサイトを確認することにより、定量指標により大学の教育環境や卒業生の状況を把握することができ、受験生や助言者が進路と学習内容を選択する際に活用される。

KIS の具体的な情報は以下のとおりである。(学修成果に関連する部分を抜粋)

### 【Key Information Sets の項目】

**学習** (全国学生調査 (NSS) での以下の質問の結果および高等教育機関からの提供情報)

- ・ 教員の説明の仕方は良かった (5 段階)
- ・ 教員は授業科目に興味深いものとした (5 段階)
- ・ 自身のコースの質について、全体的に満足している (5 段階)
- ・ 自身の学習に対して、十分な助言と支援を受けた (5 段階)
- ・ 学生のレポート等へのフィードバックが迅速になされた (5 段階)
- ・ 学生のレポート等へのフィードバックは、自身が理解していない箇所を明らかにするのに役立った。(5 段階)
- ・ 図書館は自身のニーズに十分に答えるものであった (5 段階)
- ・ 一般的な IT リソースに必要な時にアクセスすることができた (5 段階)
- ・ 各種の教授・学習活動に用いられた時間の割合 - 学習の年/段階ごと
- ・ 総括的学習評価の方法ごとの割合 - 学習の年/段階ごと
- ・ コースを認定している専門職団体・法令団体・規制団体認定のタイプの詳細、詳細情報へのリンク

**雇用と給与の情報** (DLHE サーベイにおける卒業後 6 ヶ月後の数値)

- ・ コース卒業 6 ヶ月後の進路—就職、進学、就職かつ進学、非雇用、就職不可
- ・ 卒業 6 ヶ月後に就職している者のうち、管理職や専門職の割合
- ・ フルタイムの就職者の給与データ：
  - ・ 当該高等教育機関のコース卒業 6 ヶ月後の上位 1/4、中央値、下位 1/4 の給与額
  - ・ 全高等教育機関を通じた専攻分野別の、卒業 6 ヶ月後の上位 1/4、中央値、下位 1/4 の地域調整済み給与額
  - ・ 全高等教育機関を通じた専攻分野別の、卒業 40 ヶ月後の上位 1/4、中央値、下位 1/4 の地域調整

QAA のレビューアが、KIS の詳細な情報の統計的な正確さについて判断することは想定されていないが、QAA は大学から提供される学習機会に関する情報が目的に適合し、アクセス可能で、信頼できるかどうかについての判断において、KIS と WIS を考慮する。

## Unistats の当初の評価

Unistats のユーザー経験の研究 (2013 年 5 月公表) は、それが最も広く使われている高等教育コース比較ウェブサイトの 1 つであること、そして、大学は新しい一連のデータを提供するという課題を示した。[17]

Unistats は、2012 年 9 月の開設以来、380 万ページ・ビュー、17.5 万以上のサイト閲覧者を獲得した (1 日につき平均 984 人の新しいビジター)。web サイトは、有望な高等教育学生、両親、キャリア・アドバイザー、教師、高等教育スタッフ等によって広範囲に利用された。

Higher Education Funding Councils(HEFC)による研究では、世間におけるサイトの評価とどのように活用されているのか検討し、ナビゲーション機能、検索機能、フィルタリング機能、比較機能など、データの表示方法についても検討している。

研究によれば、ユーザーは KIS から提供される主要な情報を好意的に評価し、ほとんど他のデータ見ていなかった。調査回答者は、入学資格、学科の内容、学生経験の質と卒業生の就職状況に、最も興味を持っていた。大学への入学を決めるにあたり、受験生、両親、現在の学生が最も重要であると評価した事項は、学科の内容、入学資格、地理的条件、学生満足度であり、それに就職状況が続いた。重要なことは、学生満足度よりは少ないものの、就職状況に対しては大きな興味を示されていることである。

高等教育に申し込むことを考えるとき、「エンドユーザー」である申込者、両親、学生の 40%はコース、教育とサポートに対する学生満足度を重要な項目のトップ 3 つとしてあげた。

Higher Education Statistics Agency (HESA) による別のレポートは、経験と高等教育機関の見方に焦点をあてた。教育機関によれば、KIS のためのデータ準備にあたり最も難しく手間がかかるのは、評価方法や教育手法、学習方法に関するデータを集めることであったとのことである。

これらのレポートを受け、検索機能やフィルタリング機能、データ収集のための改善が進められた。HEFCE と HESA はサイトの改善のためにこれらの調査結果を使っている。いくつかの機能改善はすでに行われており、検索機能に対する強化も含まれる。2013 年 9 月に実行された改善は、以下のとおりである。

- ・ 各コースのための位置標識を含む。デリバリーの位置によってフィルタされるのを認める
- ・ 学位のより均一な授与とコースのタイトル
- ・ 通信戦略の開発とサイトの移動互換性を持つバージョン。

《Unistats の開示サンプル》

例示として、英国の西中部地方における教育機関より 3 つの経済コースを選択して表示する。全体的なコースの質に対する満足度は 82%から 100%の範囲である。評価とフィードバックのスコアはコース全体の満足度よりも大幅に低い結果となっていた。

Your Measures	Overview	Student satisfaction	Employment & accreditation	Cost & accommodation	Study information	Entry information
<b>Course</b>	<b>BSc (Hons) Economics</b> x Full time, Optional year abroad UCAS code: L100	<b>BSc (Hons) Economics</b> x Full time UCAS code: L100	<b>BA (Hons) Economics</b> x Full time, Optional sandwich year, Optional year abroad UCAS code: L100			
<b>Location</b>	<b>University Of Warwick</b> 1 location: The University of Warwick	<b>University Of Birmingham</b> 1 location: Edgbaston	<b>Coventry University</b> 1 location: Coventry Campus			
<b>Overall, I am satisfied with the quality of the course</b>		<b>91%</b>	<b>82%</b>	<b>100%</b>		
<b>The teaching on my course</b> +						
<b>Assessment and feedback</b> -						
The criteria used in marking have been		64%	67%	83%		
<b>The teaching on my course</b> +						
<b>Assessment and feedback</b> -						
The criteria used in marking have been clear in advance		64%	67%	83%		
Assessment arrangements and marking have been fair		68%	77%	94%		
Feedback on my work has been prompt		60%	57%	86%		
I have received detailed comments on my work		50%	44%	83%		
Feedback on my work has helped me clarify things I did not understand		50%	46%	83%		
<b>Academic support</b> +						

出典 : Unistats Homepage (<http://unistats.direct.gov.uk/searchresults/>)[18]

### ③Wider Information Set(WIS)

教育機関は、その概要と、実施しているコースに関する多くの情報を公表している。HEFCE は、現在、この公開する情報が、最低限何を含まなければならないかについて指定している。HEFCE ウェブサイトによると、その情報は以下のとおりである。[19]

#### 1)組織の状況に関する情報。

以下の情報が一般に公開されていなければならない：

- ・ ミッションステートメント
- ・ 計画または高等教育機関条項に対して相当する戦略； 高等教育機関が補助金や学生の負担を通して公的に資金負担されており、高等教育を提供するうえでの教育機関のアプローチに関するハイレベル戦略が、自由に閲覧可能であることが期待される
- ・ 品質保証方針とプロセスについての記述
- ・ 学びと教育の戦略
- ・ 高等教育戦略（成人大学教育のために）
- ・ 協力に関する情報（これは、協力して HE 供給を加えているパートナーの間で、特に協定に言及する；完全な協力合意が商業的に秘密である場合があるが、共同の供給に携わっている機関が協力の性質と、特に、品質と標準のメンテナンスに関する各々のパートナーの責任を明白にすると期待される）
- ・ 雇用可能性に関する記述

#### 2)教育課程と学位授与に関する情報

以下の情報は、特に明記しない限り一般公開されていなければならない：

- ・ 案内、プログラムガイド、モジュール記述または類似物
- ・ プログラムの仕様—学生のための情報と同様に、『プログラムの仕様』はコースの権威ある説明の確認と承認目的の提供もするかもしれない、共同の供給の前後関係でも特に重要である。したがって、QAA と関連したグループは現在『プログラムの仕様』という語の適切さを検討している。セットされるより広い情報の目的で、学生とより広く市民に関連する情報は、一般公開されていなければならない。
- ・ 学内の学生調査の結果（これらは内部的な情報利用となる）
- ・ 雇い主とのつながり -雇い主は、どこでコースかプログラムに投入するか（これはかなりの高水準な意見であるかもしれない）
- ・ 協力協定、学位授与主体との関係性（上記に注意する）

#### 3)プログラムの品質と標準に関する情報

以下は、通常内部的に利用可能であり、情報請求により外部も閲覧可能である：

- ・ プログラム承認、モニタリングとチェックの手続きと結果
- ・ 英国の総合大学と単科大学における、QAA ガイダンスと外部検査である英国大学協会/高等教育カレッジ連合チェックを考慮している外部審査員のプロセス。外部審査員の役割は、明確に理解可能でなければならない。外部検査手順に関する簡潔な説明が考えられる。
- ・ 学生の不満、訴えと抗議のための方針

### ④その他の情報開示 League table

いくつかのメディアで提供されている League table は異なる大学で提供される学位取得プログラムの品質に関して、最も一般的に浸透している情報源である。全ての League table は統計方法により様々な要因の組み合わせに基づいた総合得点と順位付けを行っている。一般的に利用されている League table は教育の品質や学生満足度を評価し、フィードバックの評価／品質に関するスコアを提供している。それらは通常、全国学生調査の大学のパフォーマンスや順位付けに関係する項目のスコアにより決定されている。

たとえば Guardian league table には以下の項目が含まれている。

- ・ コース満足度：全国学生調査による最終学年学生の全体的な品質に対する満足度 (%)
- ・ 教え方のうまさ：全国学生調査による最終学年学生が受けた授業の教え方に対する満足度 (%)
- ・ フィードバックスコア：全国学生調査による最終学年学生の講義における評価やフィードバックに対する満足度 (%)

#### ⑤その他の情報開示 Which? University

Which? University は大学を選択するうえで、学生がより情報を収集できることを目的として作成された新しいウェブサイトである。Which? University は公式に公表されているデータと以下に示す主要な情報源から得られる独自情報を組み合わせたものを用いている。

- ・ 全国学生調査－それぞれの目的についてどこでデータが得られるかについて Which? University は学生満足度のフィードバックや施設等そのコースの特定の面について詳細情報を示している。
- ・ Destination of Leavers of Higher Education Survey (DLHE)－学位取得後 6 カ月後の調査で就職しているか否か及び就職している場合には、職業、収入に関する調査
- ・ Key Information Set (KIS)－これには、時間の過ごし方（講義、自己学習）の比率といったコース情報や学生評価方法（期末試験や実技評価）等の情報が含まれている。
- ・ HESA 学生記録－高等教育統計局 (HESA) は高等教育における学生に関する公的な情報源であり、学生のプロフィールや取得資格に関する情報も含まれている。Which? University は、Unistats を情報源として、各教育機関における学生の詳細情報を取り上げている。
- ・ UCAS コース詳細－大学入学手続を担う団体 (UCAS) は英国の大学への志願者を管理することに責任を有する機関であり、この団体は 353 以上の大学が設置しているフルタイム及び一部のパートタイムコースに関する詳細情報を持っている。Which? University では UCAS の約 30,000 に及ぶ 2 年以上の学位に関するフルタイムやパートタイムのコースを取り上げている。
- ・ BestCourse4me.com－は Which? University のコースページでもっとも学生に人気のある上級レベル学科の詳細情報が提供されている。
- ・ Which? student survey－毎年、Which? University は英国で現在の教育経験を含む大学での学生経験についてより実態を把握するために、大学生への調査を実施している。
- ・ University league tables－Which? University ではプロフィールページに Guardian University Guide、Times Good University Guide、Complete University Guide といった 3 つの主要な League table で表彰された教育機関をランキング形式で開示している。



#### 4) 教育の質の諸側面に関する学生への調査

以下では、英国の大学における学生の経験に関する近年の調査結果を要約する。

##### ①NUS Student Experience Report 2008

NUS の最初の学生経験に関するレポートは、全ての学生の経験に関する概観を提供している。これは、授業課程、生活環境、経済的な状況、就業に及ぶ広範なものである。

ここでは、なぜ学生が特定の大学を選択したか、また、評価・フィードバックに関する考え方について要約する。

##### 大学選択の主要な理由

Russell Group universities（高度な教育研究を行う有力大学 24 校）の学生の 45%は、大学選択の上位 3 つの理由のうちの一つとして、「求める学科、課程があるから」を挙げている。これは Post-1992 University(1992 年の法令改正で大学となった大学)の学生の 71%と対照をなす。Russell Group universities の学生のうち、約 81%は、大学選択の上位 3 つの理由のうちの一つとして「大学の学術的な評価」を挙げている。これは、Pre-1992 大学の学生の 24%、Post-1992 大学の 24%と対照的である。

##### フィードバックと評価

このレポートによれば、71%の学生が個人的、対面でのフィードバックを希望しているにも関わらず、個人的に対面でフィードバックを受けているのは 25%の学生に過ぎない。4 分の 1 近い学生は、専攻課程についてのフィードバックを受けるために、5 週間以上待たされたとのことである。

##### ②NUS/HSBC Student Experience Full Report 2010/11

この調査は、2010 年 5 月に NUS・HSBC によって学生の期待と経験について実施された調査の結果を考慮したものである。この調査は、周辺環境、経済環境、評価、教育と財源に渡る広範なものである。

##### 大学選択

約半数（48%）の学生は、求める教科、課程があるからという理由で大学を選択した。大学の地理的な位置が重要と考えられ、約 1/3（32%）の学生が、大学の立地を気に入っているとし、約 1/4（26%）の学生は自宅に近いとしている。27%の学生は、大学選択の理由として学術的な評判を挙げている。この理由は social class group A の学生では特に高い。対照的に social class C2 (=skilled working class) の学生は、自宅に近いことを主要な大学選択の理由としている。

大学のタイプも大学選択の理由に大きく影響している。Russell Group universities と Pre-1992 大学の学生は、学術的な評判を大学選択の主要な理由としている。

### 指導と学習のクオリティ

インタビューを受けた学生のうち 91%は、指導と学習の経験を good もしくは excellent と評価している。これは 2009 年の調査と同等である。しかしながら、excellent と評価した学生の割合は、2009 年の 20%から 2010 年の 16%へと明らかに低下している。これは、新入生による excellent 評価の割合低下によるものである。2009 年では、新入生は excellent と評価する傾向にあった（2009 年 28%→2010 年 14%）。

この調査によると、excellent と評価する学生の割合は減少傾向にあるが、全体として好意的に評価する学生が多い。すなわち、学生の基本的な期待は満たされているが、自身の経験に満足したり、期待を超える経験を得ていない傾向であるということである。

この理由として、大学のレベルが下がっていること及び学生の期待が高まっていることの両方が考えられる。

### フィードバックと評価

フィードバックと評価について、フィードバックとして最もよく用いられるのは、いまだに書面での評点とコメントであり、それぞれ 88%、81%の学生が受けている。対面でのフィードバックも一般的であり、24%の学生が個人的な面談で対面でのフィードバックを受け、24%はそれをグループ面談で受けた。全くフィードバックを受けていない学生は 1%のみであった。

ここから、この調査の時点では、学生はフィードバックが限定的だと思いつけているということを意味している。

対面でのフィードバックを受けた学生は平均よりも満足している。しかしながら、大部分の学生は、このようなフィードバックに関心を示しているにもかかわらず、対面形式でのフィードバックを受けていない。したがって、対面でのフィードバックの機会を増やすことが、フィードバックに係る学生の満足度を向上する手段となり、学習経験全般に係る満足度の向上につながる可能性があると考えられる。

League table の全国学生調査と KIS に焦点を当てると、学習経験の向上は、新入生獲得に直接結び付きうる。

### ③NUS/QAA Student experience research 2012

12 ヶ月間の NUS とのプロジェクトの一環として、QAA は 21 世紀における英国高等教育の学生経験を調査した。2012 年、NUS と QAA は共同で、学習経験のクオリティに関する知見を得るため、学生経験の調査に焦点を当てた一連のレポートを発行した。

### Student experience Research 2012 (Part 1: teaching and learning)

このレポートは、2011 年から 2012 年における学生の、学習と指導に関する認識に係る NUS 「学生経験調査」の結果に着目している。

全体として、学生は、指導力 (teaching skills) が質の高い学習と教育経験の最も重要な

ものであるとみており、90%以上の学生が **important** もしくは **very important** と評価している。

この調査は、学生が、評価とフィードバックに注目しており、学生が求めるものと教育機関が提供するもののギャップを指摘している。このレポートによれば、学生の大半は、評価やフィードバックを書面の評点 (86.1%)、コメント (77.9%) によって得ている。そして、おおむね半数の学生は、評価やフィードバックを授業中の作業 (56.3%) もしくは試験の評点 (54.8%) によって得ている。

チューターまたは講師との 1 対 1 による対面のフィードバックを望む学生は 66.1% であり、実際に受けている割合 (42.3%) よりずっと多い。同様に、直接的なフィードバックを望む学生は、実際に受けている割合より多い。

試験に着目すると、フィードバックの方法は似通っている。多く (83.0%) の学生は、書面での評点を受けているか、もしくは 39.3% の学生は書面でのコメントを受けている。これらは、試験のフィードバックとして好まれる方法である。およそ半数の学生は、対面でのフィードバックを得るため、チューターまたは講師との 1 対 1 でのミーティングを望むが、15.1% の学生のみが現状そのようなフィードバックを得ている。

授業や試験ののち、フィードバックを得るまでの期間について質問したところ、37.4% (1,822 人) の学生は、1-2 週間でフィードバックを受け取っているとし、38.1% (1,855 人) の学生は 3-4 週間と回答した。しかしながら 15.3% (745 人) の学生は 5 週間以上かかるかと回答した。

教育機関のグループ別では、**Russell Group universities** では 12.1% が 1 週間以内に結果を受け取ると回答した一方、**University Alliance Group** の 7.8% は、7 週間たっても何も受け取っていないと回答した。しかし、それらは他のカテゴリーでは良好な評価を得ているため、これらは教科によるところが大きいと想定される。多くの学生は、結果を 4 週間以内に受け取っていた。

#### ④ Implications of 'Dimensions of quality' in a market environment

その情報は受験生が特定の高等教育機関に入学することによって得られるであろうことを判断するために十分なものだろうか。これは **Graham Gibbs** 教授 (現ハダースフィールド大学) の「**Implications of 'Dimensions of quality' in a market environment(2012)**」で提示された問題の一つである。

このレポートは、同教授のレポート 'Dimensions of quality' (2010) に続くものである。この調査では、どんな要素 (factor of dimension) が学生の学習の質について、信頼できる指標をもたらすかを分析したものであった。このレポートによれば、もっとも重要な考察は、教育機関による資源の使い方であった。クラスの大きさ、学生の努力の程度、課程を受け持つ教師、学生へのフィードバックの量と質が、すべて学生の学修成果に影響しうるとしている。

## 成果評価指標の利用

このレポートでは、高等教育機関が、どのように同教授の過去のレポートで確認された‘Dimensions of quality’を適用すれば、学生の経験に決定的な違いをもたらすことができるかを分析している。このレポートは、教育機関が学生を引き付け、質を高め、費用対効果を高め、教育の提供に関する相対的な立場を向上しようと試みている方法のために、成果評価指標の活用の実用的意義がテーマとなっている。教育機関は、このデータ重視の市場に様々な手法で対応している。このレポートには、より良い効果をもたらさうデータの活用手法が示されている。

Gibbs 教授は以下のように述べている。

「教育機関による全国学生調査のスコア等の質的指標を向上させる試みが、入学生の獲得や学修効果に対して何らかの影響があるかどうかは未だ明らかではない。従来から大抵の場合は、評判が市場に影響していると考えられる。米国の調査で明らかになったのは、評判は教育の質、効果的な教育手法の活用、学習成果についてほとんど何の情報ももたらさず、ただ、研究成果、資源、学費を反映しているに過ぎない。教育の質に関するより有効な指標を使用することが、評判に関する受け止め方を徐々に変化させ、評判が学生にとって、より有用な指標に変わっていくかどうかは明らかではない。」

## 政策立案上の示唆

このレポートは示唆に富むが、もっとも重要な示唆の一つは、このレポートで触れられている教育機関の取り組みの多くは、学生がどこで学ぶかを決定する際、質的指標に強く注目していることを仮定しているということである。Gibbs 教授は、この前提を裏付ける資料は限られていると主張し、これを調査の喫緊の課題として強調している。

(出典 Implications of dimensions of quality in a market environment, Gibbs, G (2012))  
[20]

## ⑤OFT による CFI (call for information) レポート

2014年3月の公正取引庁(OFT)のCFIレポートでは、大学及び課程に関する学生のよりよい選択についての分析が含まれている。

現在の学生は、教育内容や大学の評判、League table のランキング、就職率といった、学習経験と将来キャリアの両面を考慮して志願先を選択していると考えられる。

レポートでは、各機関や第三者団体による選択ツールとして、ウェブサイトから学生が十分な情報に基づいて選択ができるか否かという点に注目している。多くの回答が、情報をウェブサイトや刊行物といったツールから得られると答えていると述べている。この中には League table や政府が運営する Unistats、学生により運営されている The Student Rooms といったウェブサイトまで含まれている。

これらのサイトより入手できる情報は、大学での経験（大学での教え方、学習面を含む）が重視される傾向が強まっており、伝統的に重視されていた教育機関の研究成果は重視されなくなってきていることが分かった。

現在の開示されている情報について以下の懸念が生じている。

- 学習経験についての情報格差
- 教育課程の成果についての情報格差
- 学習経験を越えた経験の提供に関する情報格差
- 情報の開示方法
- 情報提供システム再構築時における考慮ファクター

学生が、異なる教育機関で提供されている学習経験についての情報にアクセスすることがきる場合には、分野を超えた学位のコンセンサスの存在があることを OFT は明らかにした。しかしながら、これらの指標のあるべき論については議論の余地があるものである。

CFI への回答者の多くは、教育機関ごとの違いがあまりに大きいため、学生が、教育機関間の比較をすることが困難であると強調していた。これは、教育機関は、教育的な成長や学生の学習経験をより改善するという要因にフォーカスするインセンティブを持ってないかもしれないということを示唆している。

（出典 Higher Education in England: An OFT Call for Information, Office of Fair Trading, March 2014） [21]

## 5) 学修成果の評価に関する模範事例

QAA は、上記のとおり、各教育機関の水準・質の管理能力がどの程度信頼できるものか、期待水準に合致しているか確認することが主たる任務であるが、レビューの過程で検出された模範事例や要改善事項を抽出してレビュー報告の中で開示している。以下では、学修成果の評価に関する模範事例について紹介することとする。

### ①QAA データベースにおける模範事例の紹介

QAA は、ウェブサイトにおいて、これまでの大学に対するレビュー（機関監査、機関レビュー等）で検出された模範事例、要改善事例をデータベースとして蓄積している。

当該レビュー事例のうち、学修成果の評価に関する模範事例として、レディング大学の事例を紹介する。

レディング大学: 評価のためのオンラインサポート(Web-based support for assessment)  
レディング大学は幾年にわたり、幅広いアプローチを用いて、評価やフィードバックの実務を向上させた。具体的には、大学教員のために二つのオンライン・ウェブサイト; **Engage in Feedback** (フィードバック業務、2009 年供用開始)及び **Engage in Assessment**(評価業務、2011 年供用開始)を開発したことである。ウェブサイトは、評価・フィードバック分野において、活動項目、実用本位、証例ベースの情報をもとに、評価・フィードバック実務の質的向上を目的として、忙しい大学教員のニーズに応えるために設計された。ウェブサイトは、一連の中心論点に焦点をおき、大学教員に幅広い包括的および専門分野に特化した実践的な情報およびリソースを提供する。ウェブサイトは、レディング大学教員が直面する評価・フィードバックの課題の多くは、教育セクター全体に共通する課題であるため、レディング大学の教員に開示するのみならず、学外からも自由にアクセスが可能である。ウェブサイトは、レディング大学をはじめ国内で広く利用され、大学教員の評価・フィードバック業務に影響を与えている。

また、直近の 2012-2013 年度における、学修成果の評価に関する模範事例のポイントを数点紹介する。

#### 王立音楽アカデミー (2013 年 5 月)

王立音楽アカデミーでは、客観性を確保する公式の報告メカニズムにおける外部評価専門家の体系的な関与、学生に対する外部学習機会の提供、評価プロセスおよび外部評価専門家の任命プロセス及びガイダンスがある。それらは、アカデミーの品質保証およびプロセス向上に影響を与え、サポートする。

#### サセックス大学 (2013 年 6 月)

教育年度の再編成過程 - サセックス大学は、教育年度及び中間評価の時期の体制の見直しおよび実施するために編成過程にあり、その計画およびモニタリングを慎重に行っている。

#### バッキンガム大学 (2012 年 11 月)

バッキンガム大学には、学生への個人的な注目および対応を行う組織文化が全体的に醸成されている。大学の文化は、個人的なチューター制度、学生サポート、全職員との緊密な関係および評価に対する早いフィードバックを反映している。

### ②アニュアルレポートで紹介されている模範事例の紹介

QAA は、HEFCE との契約で年に 1 度活動報告を行うことが求められており、アニュアルレポートが作成されている。最新の QAA のアニュアルレポート(Annual report to the Higher Education Funding Council for England 2013)において、学習成果の評価に関する模範事例が示されており、これを紹介する。

#### チンチェスター大学 (2012 年 3 月)

チンチェスター大学では、オンライン評価・フィードバック制度を実行している。学生のキャンペーン運動や全国統計調査のフィードバックを受けて、オンライン評価・フィードバック制度は、大学全体に導入・実施されている。学習及び指導戦略実行計画は、オンライン評価・フィードバック制度を利用する大学職員を支援するための訓練及び開発にかかる大学全体プログラムを含む。QAA レビューチームは、評価・フィードバック業務向上の模範例として取り上げている。大学職員は、本部レベルおよび部門レベルで提供される一連のワークショップを通じて適切にサポートされている。学生は、評価のフィードバックに良い影響を与えたと答えている。

## 6) 教育機関の不十分な品質水準への対処

HEFCE は、「提供している（もしくは提供する予定である）業務に対して財務支援を受ける教育機関が、教育品質を評価する規則を定めていることを保証する」法的義務を負う。この義務を果たす際に、学生が十分な品質の高等教育供給を受け、そして、高品質の高等教育というイングランドの評判が維持されることを目指している。

教育機関が基準を満たしていないと判断された場合、業務改善をする機会が 2 回与えられる。

QAA の高等教育レビューにおいて、教育機関の取り組みが不満足（unsatisfactory）であると、どう判断するのか、言い換えれば、「不十分」、「改善を必要とする」カテゴリになる場合は、以下の改善を果たさなければならない。

- ・ QAA のレビュー・フォローアップ・プロセス
- ・ 必要に応じて HEFCE によってもたらされるプロセス

このアプローチは、教育機関のおかれる状況に柔軟に対応し、学生の興味に比重を置き、それぞれの教育機関や教育業界全体の評判を守ることを意図している。このアプローチは、品質保証へのリスクベース・アプローチを反映している。

### (3) 調査した評価指標の有用性と限界

#### 1) 英国における制度として優れている点

英国高等教育のための質規範として、高等教育機関として最低限保証すべき品質水準が明確にされている。

学修成果の把握と評価についても、詳細な基準が定められており、これらを満たすことが QAA の外部評価によって確認されることとなる。

この点、我が国では、各大学においてディプロマポリシー等を定めているところであるが、全大学の最低基準を規範的に定めたものは存在せず、我が国において更なる検討が求められるところである。

また、大学評価に対して学生の関与を強めている点が特徴としてあげられる。QAA が実施する高等教育評価においても、学生をレビューチームの正式なメンバーとして位置づけ、学生からの評価を重視する姿勢を打ち出している。学修成果との関係でいえば、学修成果が直接的に反映される主体（アウトプット）は学生自身であり、学生をレビューアールとして位置づけ、より具体的に評価制度に巻き込む取り組みは合理的であるといえる。

さらに、Unistats 等の情報公開の仕組みや、全国学生調査による教育を受ける側からの評価について、全国統一的な情報提供の仕組みを構築している点も評価できる。英国における全国学生評価のような、学生に対するアンケートは、我が国では一部の大学において実施されているのみである。



我が国で現在検討されている「大学ポートレート」において、英国の Unistats のように各大学の教育情報を公開することが予定されているが、「大学ポートレート」は各大学の任意参加となっており、比較可能性の担保という点では課題が残る可能性がある。

## 2) 英国における学修成果把握の課題

英国の制度は、上記のように特筆すべき点がみられる一方で、学修成果把握も含む高等教育機関に対する質保証の仕組み、外部保証の仕組みは、継続的な制度改変にさらされており、なお、検討の途上にあるともいえる。

特に、外部機関による評価を受けることの負担をどのように軽減するのか、どのように実効性を高めるのかについて継続的に検討が行われている状況にあり、外部評価の効率性と有効性の両立は今後の検討課題と考えられる。

また、大学評価機関が行う学修成果の把握に対する評価についていえば、定量的な指標による評価は行われておらず、QAA による評価対象は、学習環境や、学習プロセスなど、学修成果を高めるための仕組みに関する評価が中心となっている。

## 1.2.2 米国

### (1) 米国の制度の概要

#### 1) 連邦教育省 (USDE) と高等教育アクリディテーション協会 (CHEA)

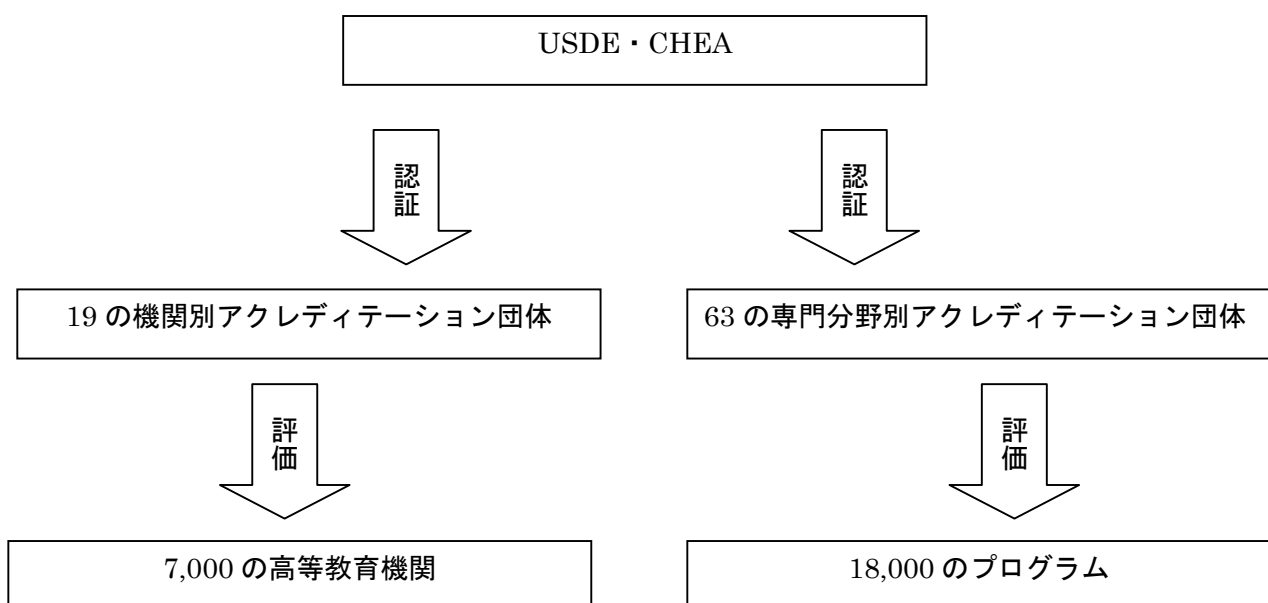
米国では、連邦教育省 (USDE : US Department of Education) と高等教育アクリディテーション協会 (CHEA : Council for Higher Education Accreditation) の2者が、各アクリディテーション団体に対し、「認証」という形でアクリディテーション (※) に類似する活動を行うことで、その妥当性や有効性の検証を行うメカニズムが確立されている。

すなわち、米国では一般的に連邦政府は合衆国憲法に列挙された権限のみを行使し、それ以外の権限は州と国民に留保されている。そのため、高等教育のアクリディテーション団体も連邦政府関連機関ではなく、高等教育機関が設立した民間の非政府組織となっている。

米国では、19の機関別アクリディテーション団体 (6つの地域別アクリディテーション団体と、宗教関連や職業関連の団体など) が7,000の高等教育機関を評価し、63の専門分野別アクリディテーション団体が18,000のプログラムを評価している。これらのアクリディテーション団体は、連邦教育省 (USDE) と高等教育アクリディテーション協会 (CHEA) の2者により、それぞれに認証される

(出典：大学評価のメタ評価に関する調査研究報告書 2012年4月 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 研究開発部 P5)。[22]

(※) アクリディテーション：質の保証・改善を目的として大学や教育プログラムの審査を行うために高等教育界で採用されている外部審査方法の一つ。



連邦政府による学資援助やその他のプログラムの適用を希望する高等教育機関や教育プログラムは、連邦政府が認証するア krediteーション団体から適格認定を受けていることが求められる。

(出典：独立行政法人 大学評価・学位授与機構 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 アメリカ合衆国」 P21) [23]

なお、米国では日本と異なり、政府自身による政府保証民間ローン (The Federal Family Education Loan Program, FFEL) ) や、政府直接ローン (Federal Direct Student Loan, FDSL) 等が発達しており、学生の利用も多い。

逆に米国政府としては、債務が不履行とならないように学生が卒業・就職し、ローンが返済される必要がある。

したがって、ア krediteーション団体からの適格認定に加え、高等教育機関や教育プログラムの学修成果が就職やローン返済に結びついているか等、当該ア krediteーションの有効性自体についても米国政府の強い関心事となっている。

(出典：アメリカにおける奨学制度に関する調査報告書 独立行政法人日本学生支援機構) [24]

2) 連邦教育省 (USDE) と高等教育ア krediyteeshon 協会 (CHEA) の認証構造に関する比較

連邦教育省 (USDE) と CHEA の認証構造に関する比較としては、以下をあげることができる。

	連邦教育省 (USDE)	CHEA
認証開始 (設立) 年	1952 年 (開始)	1996 年 (設立)
認証担当部署	Office of Postsecondary Education	Recognition Services
財源	米国議会	CHEA に認証されたア krediyteeshon 団体からア krediyteeshon を受けている高等教育機関による会費 (メンバーシップ制)
認証の特性	政府規制	自主規制
認証の主目的	連邦資金 (奨学金などの学資援助) が高等教育機関や教育プログラムの質に結びついているかどうかを検証	高等教育機関や教育プログラムの質の保証と向上
認証しているア krediyteeshon 団体の対象高等教育機関・教育プログラムの特徴	連邦政府による学資援助や関連プログラム連携を求める高等教育機関・プログラムに限定 (ただし、海外分校は含まない。例外的に認証を受けることはできるが、連邦奨学金やローンなどのプログラムを利用することはできない)	学位を授与する高等教育機関や教育プログラムに限定 (海外分校を含む)
認証周期	5 年周期の認証 + 中間報告	10 年周期の認証 + 中間報告 (3 年目および 6 年目の 2 回)

(出典: 大学評価のメタ評価に関する調査研究報告書 2012 年 4 月 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 研究開発部 P40) [22]

3) 連邦教育省 (USDE) と高等教育ア krediyatshon 協会 (CHEA) の認証プロセスに関する比較

連邦教育省 (USDE) と CHEA の認証プロセスに関する比較としては、以下をあげることができる。

	連邦教育省	CHEA
1	ア krediyatshon 団体による認証申請	ア krediyatshon 団体による認証申請
2	教育省スタッフによる書面 (コンプライアンス) 審査 《自己点検報告書+根拠資料+パブリックコメント》	CHEA スタッフによる書面 (コンプライアンス) 審査 《自己点検報告書+関連資料》
3	教育省スタッフによる訪問調査 《ア krediyatshon 団体の大学訪問調査の同行やア krediyatshon 判定会議の査察》	CHEA に選出されたピアによる訪問調査 《ア krediyatshon 団体のア krediyatshon 判定会議を査察》
4	認証委員会 (NACIQI) による審査	認証委員会 (Committee on Recognition) による審査
5	教育省長官による最終承認	CHEA 理事会による最終承認

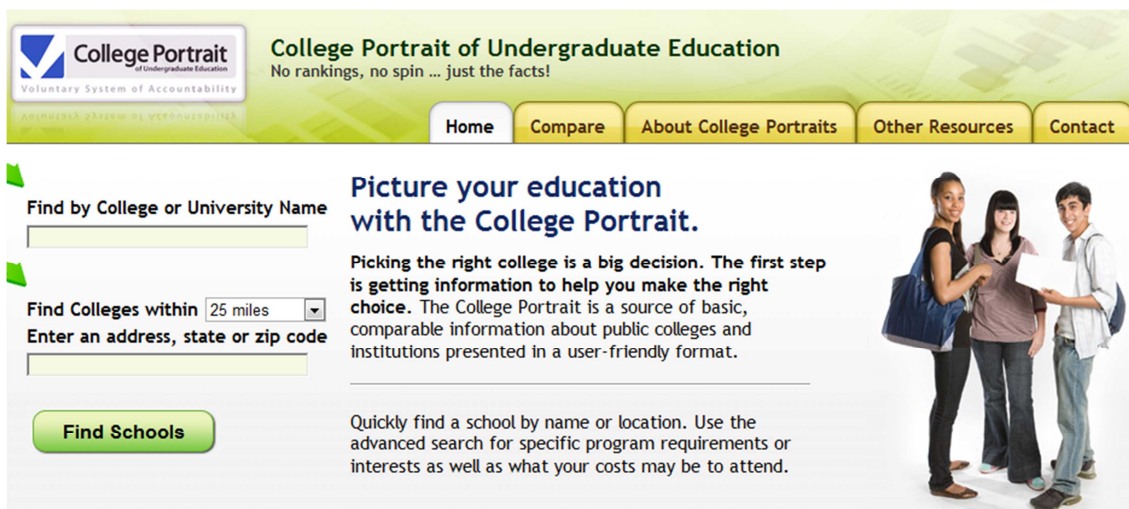
(出典: 大学評価のメタ評価に関する調査研究報告書 2012年4月 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 研究開発部 P41・45) [22]

#### 4) 米国の情報公開体制

米国の情報公開体制としては、以下の事例をあげることができる。

##### <College Portrait>[25]

College Portrait は、米国州立大学協議会、米国州立大学・土地贈与大学協議会によって運営されている州立大学の情報公開を目的とした web サイトである。College Portrait の狙いは、高校生が大学選択しやすいツールを提供すること、透明性のある比較可能で理解しやすい情報を掲載すること、公共へのアカウンタビリティに対応すること、効果的な教育実践方法を把握し、効果を高めるために教育成果を測定することである。



上記の College Portrait の web サイトから大学や大学規模等をもとに検索でき、大学間の比較が可能である。具体的には、在学学生情報、卒業率、奨学金情報、入試情報、授業料、卒業後の進路のほか、学生の学修成果に関する情報が含まれている。特徴としては、学修成果に関する情報を公表することであり、College Portrait に参加する大学は学修成果の測定方法として、CLA (Collegiate Learning Assessment)、MAPP (Measure of Academic Proficiency and Progress)、CAAP (Collegiate Assessment of Academic Proficiency) 等を採用し、低学年時の一般的知識や技能、能力 (クリティカル・シンキング、文章表現など) と高学年時のそれらを測定、伸張などを把握・公表している。

(例：大学間コスト比較)

Costs	California State University, Northridge		California State University, Sacramento	
	<a href="#">View 2012-13 Portrait</a>	<a href="#">[remove]</a>	<a href="#">View 2013-14 Portrait</a>	<a href="#">[remove]</a>
<b>Total Estimated Costs</b>				
	<b>In state</b>	<b>Out of state</b>	<b>In state</b>	<b>Out of state</b>
Tuition	\$5,472	\$16,632	\$5,472	\$11,160
Required fees	\$1,032	\$1,032	\$1,130	\$1,130
Room & board (on campus)	\$16,646	\$16,646	\$11,874	\$11,874
Other expenses (books, transportation, etc.)	\$6,242	\$6,242	\$4,302	\$4,302
<b>Total</b>	<b>\$29,392</b>	<b>\$40,552</b>	<b>\$22,778</b>	<b>\$28,466</b>

## <College Navigator> [26]

College Navigator は、米国の全大学を対象とし、連邦教育省全米教育統計センターによって運営されている web サイトである。College Navigator は、全米の大学等を対象とした大学教育総合データシステム(IPEDS)や、他の政府機関（連邦高等教育局、連邦学生支援局）のデータを基に構築されている。

The screenshot shows the College Navigator website interface. On the left, there are search filters for 'Name of School', 'States' (Alabama, Alaska), 'ZIP Code', 'Miles from', 'Programs/Majors', 'Level of Award' (Certificate, Bachelor's, Associate's, Advanced), and 'Institution Type' (Public, Private non-profit, Private for-profit, 4-year, 2-year, < 2-year). A 'Show Results' button is visible. The main content area features a large banner with the text 'Find the right college for you' and a 'Guide Me' button. Below the banner, there are several informational sections: 'Refine your search with More Search', 'Build a list of schools using My Favorites for side-by-side comparisons', 'Pinpoint school locations with an interactive map', 'Export search results into a spreadsheet', 'Save your session including search options and favorites', and 'Add College Navigator to your browser search bar'. On the right side, there are links to 'College Affordability and Transparency Center', 'ADDITIONAL RESOURCES' (Preparing for your Education, Financial Aid, Postsecondary Education Outcome Measures), and 'Financial Aid'.

上記の College Navigator の web サイトから大学や州等をもとに検索でき、大学間の比較することが可能である。

具体的には、教員数、大学院生のアシスタント数、授業料等、入試必要スコア、進級率、第三者評価の結果、キャンパス、ア kredィテーションの状況等が記載されている。

(例：ア kredィテーションの状況等)

ACCREDITATION		
INSTITUTIONAL ACCREDITATION		
AGENCY	PERIODS OF ACCREDITATION	STATUS
Western Association of Schools and Colleges, Accrediting Commission for Senior Colleges and Universities	2/28/1977 -	Accredited
SPECIALIZED ACCREDITATION		
AGENCY / PROGRAM	PERIODS OF ACCREDITATION	STATUS
<b>American Association for Marriage and Family Therapy, Commission on Accreditation for Marriage and Family Therapy Education</b>		
Marriage and Family Therapy (MFT) - Clinical training programs at the master's, doctoral, and postgraduate levels	1/31/2001 - 4/15/2013	None
<b>American Psychological Association, Committee on Accreditation</b>		
Clinical Psychology (CLPSY) - PhD Doctoral programs	5/6/1980 -	Accredited
Clinical Psychology (CLPSYD) - PsyD Doctoral programs	5/26/1994 -	Accredited
■ <a href="#">FINANCIAL AID FOR POSTSECONDARY STUDENTS - Accreditation &amp; Participation</a>		





②高等教育アクリディテーション協会（CHEA）が各アクリディテーション団体に求める認証基準

CHEA は、1996年に設立された高等教育に関する全米規模の民間非営利団体であり、国内の機関アクリディテーションと専門アクリディテーションの連絡・調整を行うことを目的としている。

CHEA からの認証を求めるアクリディテーション団体は、以下の基準を満たすことを示す資料の提示が求められる。

評価指標	具体的内容
1. 教育研究の質の向上	アクリディテーションの対象となる高等教育機関や教育プログラムのミッションに基づいた教育、学習、研究、社会貢献に伴う成果のこと。
2. アカウンタビリティの明示	社会の信頼や投資を促進するべく、教育研究の質や学生の学習成果に関して信頼のおける一貫した情報提供のこと。
3. 必要な変化や改善のための自己精査や計画の奨励	高等教育機関の理念に基づき、機関や教育プログラムが改善のために自己点検や自己分析を行うこと。 また、学生の達成目標に到達するため、アクリディテーションの対象となる機関やプログラムが組織化し、資源を最大活用し、必要とされる人事やその他諸々の方針や手続きを決定するために創造的かつ多様であること、改革や試行を行うこと。
4. 意思決定における適切かつ公正な手続きの採用	アクリディテーションの判定にあたっては、適切性や公平性を保つために高等教育の専門職と社会の参加が必要であること、対象機関や教育プログラムの点検にあたっては、それぞれのミッションを尊重しつつ一貫性をもつこと、アクリディテーションを取り消したり、不適格認定する際のプロセスを公正なものにし、それを該当機関や教育プログラムに周知すること。
5. アクリディテーション審査の継続的なレビューの明示	対象機関や教育プログラムの自己点検だけではなく、アクリディテーション団体自身も自らのアクリディテーション活動に対して自己点検を行う必要があること。
6. 十分な資源の保有	アクリディテーション活動を効果的・効率的に進めるにあたり、十分なリソース（財政、スタッフ、運営）を有していること。

（出典：独立行政法人 大学評価・学位授与機構 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 アメリカ合衆国」 P20） [23]

（出典：大学評価のメタ評価に関する調査研究報告書 2012年4月 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 研究開発部 P47） [22]

2) 各アクレディテーション団体が高等教育機関やプログラムに求める評価基準

米国では、19 の機関別アクレディテーション団体（6 つの地域別アクレディテーション団体と、宗教関連や職業関連の団体など）及び 63 の専門分野別アクレディテーション団体があるが、地域別アクレディテーション団体が提示する学修成果のエビデンスの例は以下にあげることができる。

直接的指標の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関が作成した専攻規模ないし機関規模の学力テスト</li> <li>・ 標準テスト</li> <li>・ 履修前テスト・履修後テスト</li> <li>・ 組織規模で行う用途を伏せた小論文テスト</li> <li>・ 学生の課題の成果やインターンシップに関する学内・学外の審査員による評価</li> <li>・ 全国規模の資格試験での実績</li> <li>・ 学生の業績の集積（ポートフォリオ）</li> <li>・ 科目ごとの評価</li> </ul>
間接的指標の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同窓生・雇用者調査</li> <li>・ 機関規模・全国規模の学生調査</li> <li>・ 卒業直前面談</li> <li>・ インターンシップや留学などのプログラムへの参加率</li> <li>・ 卒業生追跡調査</li> <li>・ 大学院進学率</li> <li>・ 大学院入試合格率</li> <li>・ 専門分野における学生の実績</li> <li>・ リテンション率・編入率、就職率</li> </ul>
学習成果のエビデンスにはならないもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の業績（学生が参画したものを除く）</li> <li>・ 科目の学生の間での人気</li> <li>・ 教員－学生比率</li> <li>・ 入学者数の増減</li> <li>・ 学生奨学金総額</li> <li>・ 学生の（人種的）多様性</li> <li>・ 助成金額</li> <li>・ 図書館の本の冊数</li> </ul>

（出典：学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究（研究成果報告書）研究代表者 深堀聰子 国立教育政策研究所 総括研究官 第5章 アメリカにおける学習成果重視政策議論のインパクト 森 利枝（大学評価・学位授与機構）P114）[13]

また、ここでは地域別アクレディテーション団体の事例として、米国西部地区基準協会（WASC）のアクレディテーション基準について述べる。

米国西部地区基準協会（WASC）では、アクレディテーション基準としては以下の 4 つを定めている。また、各基準のうち、例えば基準 1 の場合には大学の目的や誠実性等、その範囲内で評価が求められるカテゴリーが 2～3 用意されている。

さらに、各基準の下に評価基準が設定されている。

アクレディテーション基準
基準 1 : 大学の目的の策定および教育目標の明確化 (Defining Institutional Purposes and Ensuring Educational Objectives)
基準 2 : 中核的な活動による教育目標の達成 (Achieving Educational Objectives Through Core Functions)
基準 3 : サステナビリティを確保するための資源と組織構造の開発・適用 (Developing and Applying Resources and Organizational Structures to Ensure Sustainability)
基準 4 : 学習と改善に従事する体制の構築 (Creating an Organization Committed to Learning and Improvement)

(出典：中央教育審議会大学分科会 質保証システム部会 (第 15 回) H22.3.29) [27]

※WASC (Western Association of Schools and Colleges)

WASC は、米国における地区別基準協会の 1 つであり、カリフォルニア州、ハワイ州等を管轄している。1962 年に設立され、大学評価委員会をはじめとする 3 つの評価委員会 (Accrediting Commission) から構成されている。大学評価委員会は、これまで 160 ほどの大学を評価・認定し、近年は米国外において教育研究活動を展開する国際的教育機関に対する評価も活動の 1 つとしている。

(出典：大学評価シンポジウム報告書「アウトカム・アセスメントの構築に向けて 一内部質保証システム確立の道筋一」 財団法人 大学基準協会 P3) [28]

3) 高等教育機関が学修成果の評価に利用する標準テスト

米国の高等教育機関では、学修成果の評価にあたり民間テスト業者が提供している様々な標準テストを利用する場合がある。

事例としては、以下をあげることができる。

テスト名	測定されている成果の種類	左記の具体的な内容
CAAP (※)	一般的技能	記述力（客観的・小論文）、読解力、数学力、化学的論理づけ能力、批判的思考力、すべての学問領域から取り込んだ教科内容。
MAPP (※)	一般的及び専門分野別技能	人文・社会科学・自然科学のコンテキストの中で読解力と批判的思考力を測る。記述力、数学力
Tasks in Critical Thinking	一般的及び専門分野別技能	大枠としての学問領域（人文・社会科学・自然科学・芸術）のコンテキストの中で、実践的課題が出される。課題の設定、分析、コミュニケーション能力。
Major Field Tests	専門分野別知識と技能	専門分野ごとにもっとも重要とみなされている知識と技能（知識、問題分析・解決能力、関係性をとらえる力、専門分野に関する図表などの資料を解釈する力）15の学士課程の学問分野と経営学修士について準備されている。
CLA (※)	一般的及び専門分野別技能	批判的思考力、分析的論理づけ能力、文章表現力、情報活用力
	コンピテンス	実社会における課題（文書やデータを理解、評価、活用してレポートや政策提言を構築する）、大枠としての学問領域（人文・社会科学・自然科学・芸術）のコンテキストのなかで設定された実践的作業。

(※)

CAAP : Collegiate Assessment of Academic Proficiency

MAAP : Measure of Academic Proficiency and Progress、ETS Academic Profile に代わる)

CLA : Collegiate Learning Assessment

(出典：高等教育における学習成果アセスメント-特筆すべき事例の比較研究-OECD 教育関連ワーキングペーパーNO.15 P18) [29]

なお、ベネッセ教育総合研究所により行われた、「先導的・大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究（平成 20 年度調査 報告書）」[30]では、米国における標準テストとその普及に係る状況について、以下のようにまとめられている。

標準テスト		CLA、MAPP、CAAP
開発経緯		テスト開発機関と大学研究者、高等教育団体等との共同開発
主な用途		主としてアクレディテーションへの対応、州政府への説明対応等。大学内では教学改善への適用に問題意識。
現状		私立短期大学、州立大学を中心に普及途上（全大学の 2 割程度参加）
促進要因	利用に向けた外圧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクレディテーション機関の審査基準として教育の効果証明が求められる</li> <li>・州政府からのプレッシャー</li> <li>・公立大学の教育効果に係る自主的な情報収集、提供活動（VSA）</li> </ul>
	大学側の活用努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業要件、単位としての組み込み等（一部）</li> <li>・学習参加調査、内部開発テスト、e-ポートフォリオ等と組み合わせた包括的な活用</li> </ul>
	テスト機関側の普及努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを活用した教学改善に向けたワークショップ、コンサルテーションの展開（CLA、MAPP、CAPP とも）</li> <li>・利用大学のコンソーシアム（例：CLA 利用団体である CIC 等）</li> </ul>
主な問題点、批判		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野の多様性を無視している。</li> <li>・サンプルが少なく妥当性に疑問</li> <li>・学生の参加強制力がなく結果に疑問</li> <li>・機関評価であり教育改善への活かし方がわからない</li> <li>・費用負担が重い</li> <li>・相互評価等による大学間の無益な競争や、本来の教育目的の喪失につながる懸念</li> </ul>

### (3) 米国の評価制度の課題

#### 1) アクレディテーションについての課題

アクレディテーションは、大学の質が最低限の水準を満たしているかについて焦点をあてているが、国際的な競争が高まる中、これだけでは十分な制度とは言えなくなっている。

また、社会は大学の実績（特に学生の学修成果）についてより透明性が高くわかりやすい情報の提供を求めおり、アクレディテーションも大学の実績に重点を置く必要がある。

現在のアクレディテーションに係る活動は、必ずしも効率性や生産性の向上、あるいは経費節減に結びついているとは言えない（「大学評価・学位授与機構 諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 アメリカ合衆国」P26）[23]

さらに、アクレディテーションは、外部の基準ではなく、内部における改善を重視する制度であり、教育機関内部の自己評価に基づく内部行為であるため、外部に対する説明責任とは必ずしも合致しない。また、アクレディテーション団体は複数併存しているので、全米レベルで統一された基準が存在しない。

また、基準認定とは原則として最低水準を保証しているに過ぎないばかりか、むしろ、アクレディテーションとは、教育機関が短所よりも長所を、失敗よりも成功を報告することを奨励する傾向があるため、全米レベルの標準テストである、CAAP、MAPP、CLA を利用することを決定する場合がある。

（出典：「先導的の大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究（平成20年度調査 報告書）ベネッセ教育総合研究所 P111、113）」[30]

#### 2) 標準テストについての課題

標準テストについての主な批判として、ベネッセ教育総合研究所による「先導的の大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究（平成20年度調査報告書）[30]では、以下のように述べられている。

##### ■アセスメントの方法論への疑念

##### ○サンプリングの信頼性があるのか？

- ・（CLAについて）1学年に2000名以上も在籍があるのに、100のサンプルで本当に足りるのか。CLAは100で十分といっているが、大多数が疑問に思っている。
- ・4年生を100名集めるためには、学年全体に声をかける必要があるだろうし、来る学生が特定の学生だったらサンプリングには問題がある。（GMU）

##### ○学生のモチベーションが確保されるのか

- ・MAPPは卒業成績には影響しないため、受検のモチベーションは課題である。これはMAPPのようなテストはいずれもそうで、広く議論を要する課題である。（UMUC）
- ・機関比較の目的で使用されるCLA、MAPP、CAAPなどは、強制力のないサンプルテストであり、信頼できる指標といえるだろうか。学生のモチベーションが低くないと保証できるだろうか？（BSU）

○天井効果あり（もともと優秀な学生は不利）

- ・CLAの弱点としては、点数が低い学生の伸びは測れるが、天井効果があるので元々点数が高い学生の変化を測るには限界がある。（GWU）

#### ■教育改善に活用しにくい

CLAをすばらしいテストだと思い一度は実施を決めた。ところが、もう一度検討した結果、結局我々の大学ではうまくいかないだろうということで、行わないことになった。CLAはカリキュラムには合致しない。結果はどのように活用すればよいか。（GMU）

看護学部で市販の批判力テストを利用したことがあるが、結果を見ても、看護学部の学生が独自の教育目標に達しているのか、教育システムのどこに長所、短所があるのか判断できなかった。（IUPUI）

#### ■大学教育への負の波及効果

○多様な大学の専門性や、goalを考慮していない。

### 3) 地域別アクレディテーション団体の評価についての課題

前述した地域別アクレディテーション団体のうち、米国西部地区基準協会（WASC）を参考にした場合、以下の留意事項を認識している。

- ・大学で実際に評価するプログラムには、学外者からのレビューが必要
- ・連邦政府からの課題として、卒業生の学力レベルの格差があげられており、また標準テストの結果、学習レベルが伸びていない旨の報告があった。
- ・各教育機関が、きちんと評価を行っていない場合があり、この場合の対応方法
- ・評価者側のレベルの統一による各教育機関への対応の平等性
- ・評価結果が公表されることによる資金配分への影響
- ・評価にかかるコスト
- ・グローバルな競争の厳しい社会の中でどのような選択肢があるのか、定められた規律や社会的な問題の中で、何を選んでいくのかを明示すること。
- ・評価機関として1つの基準やテストを設けず、各教育機関が決めた学習成果の測定方法に対して、その根拠が信頼できるかを評価することを役割であると考えているが、実際に学習成果をどのように判断していくか。等

（出典：大学評価シンポジウム報告書「アウトカム・アセスメントの構築に向けて—内部質保証システム確立の道筋—」財団法人 大学基準協会）[28]

(4) より効果的に成果の把握・評価を行うために取り入れている事例

CHEA では 2005 年から学修成果に関して Institutional Progress がある大学を表彰してきた。また、2009 年に名前を「CHEA Award for Outstanding Institutional Practice in Student Learning Outcomes」に変更し、Progress から Practice (事例) 中心の内容に変えて行っている。

この変更は、インプットや審査の手続きよりも学生の修了率や学修状況などの実績・成果を重視すべきであるとするスペリングス報告書 (2006 年 9 月) 等の影響も受けていると考えられる。

CHEA では選定委員会を設置し、CHEA 加盟校の大学、プログラム、メジャーのいずれかの単位での申請を受け付け、年間最大 4 つの表彰を行っている。

通常は 8 月に受け付け、翌年 1 月に開催される CHEA の年次総会時に授与している。

この表彰については、教育機関からの自己申請により検討対象となるため、全ての高等教育機関が検討対象となっているわけではない。ただ、表彰された場合には、知名度向上や学生確保等のメリットがあるため、教育機関の中には、表彰のための選定基準も参考にしながら学修成果の把握を行うことがある。

表彰のための選定基準は、以下となっている。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①大学、プログラム又はメジャーにおいて、学修成果が明確にされているか。</li><li>②学修成果の達成が確認できるエビデンスが提供されているか。</li><li>③期待されている学修成果とその達成状況を社会 (学外の関係者) に対して周知しているか。</li><li>④大学改善のために学修成果を活用しているか。学修成果の達成が大学、プログラム又はメジャーの役に立っていることがわかるエビデンス。</li></ul> |
|---|

また、上記の選定基準に加えて、選定委員会では以下の 5 つの優れた事例の事実を勘案して決定している。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①大学の文化に根付いたものとなっているか。</li><li>②学修成果を達成するための方法やツールとして、最新のテクノロジーをうまく活用しているか。</li><li>③教員の強力なサポートを得ているか。</li><li>④学修成果を達成するために必要な大学の指導者からの支持は得られているか。</li><li>⑤他大学の模範となり得るような学修成果達成のためのアプローチ方法となっているか。</li></ul> |
|---|



表彰されている教育機関の表彰理由としては、例えば以下をあげることができる。

表彰年	表彰対象	表彰理由の抜粋
2013	Drake University Environmental Science and Policy Program	プログラムが内部及び外部のレビューを受けている。
2012	University of California, Merced	学生も評価プロセスに参加している。
2011	James Madison University Social Work Program	継続した方法により学修成果を評価している。
2011	Miami Dade College	カリキュラム・マッピング※によって学修成果を整理している。
2009	Delaware Technical & Community College Planning and Assessment Program	学修プログラムの効果について明確な根拠を提供している。

(※)カリキュラム・マッピング:どのコースがどういった学習成果を目指すかを明示したもの。

上記の他、全体的な傾向として、組織的に学修成果の把握方法を確立して実践している教育機関が CHEA から表彰されているものと考えられる。

(出典 : Effective Institutional Practice in Student Learning Outcomes : CHEA Award Recipients) [31]

### 1.2.3 オーストラリア

#### (1) オーストラリアの制度の概要

オーストラリアにおける高等教育の評価システムとして、主に以下の 4 つをあげることができる。

##### 1) 全国的な教育資格・学位枠組：「オーストラリア資格枠組」(AQF)

オーストラリア資格枠組 (Australian Qualifications Framework: AQF) は、教育資格・学位の質・水準を管理する、大学、職業専門教育訓練、中等教育を対象として資格および学位をひとつの枠組みに統合する全国的なシステムであり、AQF によって中学・高校、職業教育・訓練機関、大学等、国内すべての教育機関における学位・資格が全国的に統合され、学習者は現在の教育機関から、異なる教育機関のより上位のコースに速やかに進学することが可能となっている。

AQF は学修成果の程度によって定義づけられた 10 のレベル区分と資格のタイプに分類された構造になっており、各資格と学修成果の関連が明瞭に表示されている。

##### 2) 高等教育の認可プロセス全国規約にもとづく大学等の設置認可およびアクレディテーション

オーストラリアにおける高等教育の主要な評価システムとして高等教育の認可プロセス全国規約 (National Protocols for Higher Education Approval Processes) がある。高等教育の認可プロセス全国規約は、高等教育を提供し、アクレディテーションを行うことを希望する大学等の設置認可およびアクレディテーションに係る審査を州・準州政府が行う際の共通基準として、あらゆる高等教育機関が順守すべき諸要件が規定されている。当該規約は、新しく設置されるオーストラリアの高等教育機関が一定の基準を満たしており、政府による適切な規制を受けていることを学生や社会一般に対して保証するとともに、国内外に対して、オーストラリアの高等教育の地位を保護することをその目的としている。

### 3) 外部のモニタリング制度

オーストラリアの多くの大学は、年次財政報告書や業務報告書を州政府に提出することが求められているほか、州の会計検査担当長による公的機関対象の定期会計監査の一環としてその財政状態がチェックされることになっている。大学はさらに、連邦政府教育・雇用・職場関係省 (DEEWR) 主導で実施される各種統計調査や、後述の卒業生進路調査 (Graduate Destination Survey: GDS) やコース調査 (Course Experience Questionnaire: CEQ) 等、学生の学修成果を測定する学生調査に参加することが求められている。

### 4) 外部機関による監査 (オーディット)

従来、オーストラリアの教育の質を保証する体制において、中心的な役割を果たしてきたのがオーストラリア大学質保証機構 (Australian Universities Quality Agency: AUQA) であった。AUQA は教育の質を保証するための適切な仕組みが各教育機関に整備されているか、またそれが実質的に機能しているかという点をチェックし、高等教育機関やアクレディテーション機関を対象とした外部監査を行ってきた。

オーストラリアの大学等を対象とした約 5 年周期のオーディットを通じて、高等教育の質の保証に資するとともに、各機関が行う教育研究の質向上の取組を支援していくことが目的であった。

(出典：大学評価・学位授与機構 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要」 P39) [32]

従来のオーストラリアにおける高等教育の質保証は、主に大学等の各高等教育機関、AQF、州・準州政府、AUQA、連邦政府により行われてきた。

ここで、近年の動きとして、Tertiary Education Quality and Standards Agency (TEQSA) の設立が挙げられる。

2011 年 7 月に TEQSA が設立され、2012 年 1 月から本格的に業務を開始した。TEQSA は、高等教育機関への規制・質保証を行う政府直属機関であり、高等教育に関しては、TEQSA が一元的に規制・質保証業務を行っている。これに伴い、TEQSA は AUQA から監査業務を引き継いでいる。

## (2) 大学評価において活用されている評価指標・評価指標の具体的な内容

### 1) オーディット

AUQA による 2002 年からの第 1 周期のオーディットでは、自己評価と訪問調査にもとづく機関別オーディットが行われた。受信機関の使命や目標の達成状況が調査されたほか、教育、学習、研究、経営・管理などの主たる分野において、質保証のための枠組みが適切に整備されているか、オーストラリアの大学教育にふさわしい教育研究水準が保たれているかについて審査が行われた。

AUQA のオーディットの特徴は、受審機関独自の目標に照らしていることであり、外的に規定された何らかの評価基準を受審機関に当てはめるものではない。また、高等教育部門の多様性を促進していくことに特に重点が置かれており、オーディットが受審大学側の負担とならないよう最大限に配慮されている。

2008 年からの第 2 周期のオーディットの特徴としては、受審機関の教育研究活動の業績や基準、学修成果に着目している点が挙げられる。そのオーディット・マニュアルには「学術水準との関連のなかでパフォーマンスや成果を査定する」と明記され、また、水準や成果を評価するための参考枠組として「水準成果枠組 (Framework on Standards, Evidence and Outcomes)」が策定されていた。

(出典：オーストラリア大学質保証機構によるオーディット型評価 杉本和弘) [33]

#### Framework on Standards, Evidence and Outcomes (一部抜粋)

主な活動	テーマ	鍵となる方針とプロセスの例	成果を示すものとその測定	情報源
教育と学習	1.4. カリキュラムとコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の相当なレベル、一貫した知識、理論的なフレームワークによって支えられたカリキュラム</li> <li>・カリキュラム評価、コースの品質と適合性を含む施策とモニタリング</li> <li>・同等のプログラム (オフシェア含む) 全体での一貫した水準の担保</li> <li>・雇用者や専門団体との協議方針、関与</li> <li>・明示的な学習目的と評価作業の接合</li> <li>・卒業生特性のマッピング、コースへの当てはめ、ツールの供給 (例えば e ポートフォリオ)</li> <li>・全国規約や AQF の要件やガイダンスに対する、プログラムやコースの体系的評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な教育及び学習経験 (例えば仕事ベース、応用、共同)</li> <li>・カリキュラム評価報告の分析</li> <li>・ベンチマーキング結果</li> <li>・雇い主の満足感と関与レベル</li> <li>・コース (カリキュラム) の外部チェック</li> <li>・コースの国家的および国際的な公認条件についてのレポート</li> <li>・GDS と他の就職先調査</li> <li>・卒業生特性 (例えば CEQ スケール、機関調査) の達成度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国規約 (National protocols)</li> <li>オーストラリア資格枠組 (AQF)</li> <li>コース調査 (CEQ)</li> </ul>

(出典：AUQA 2008a Appendix E) [34]

ここで、成果を示すための取り組み事例や情報源として、卒業生進路調査 (GDS) やコース調査 (CEQ) が挙げられている。以下、GDS や CEQ に代表される学生調査について触れる。

## 2) 学生調査

オーストラリアの大学の学生及び卒業生を対象とした全国レベルの学修成果調査の代表例としては、卒業生進路調査 (Graduate Destination Survey: GDS)、コース調査 (Course Experience Questionnaire: CEQ)、卒業生能力調査 (Graduate Skills Assessment: GSA)、等が挙げられる。

以下において、これらの調査について具体的な内容を見ていく。

### ①卒業生進路調査 (Graduate Destination Survey: GDS)

GDS は、卒業生の活動について情報を収集することにより、学生に対して卒業生の就職状況や進路について情報提供するためのデータ収集である。

GDS では、卒業後数カ月経過後の卒業生の雇用状況、職種、平均年収、就職活動等の職業に関連した情報と、フルタイム・パートタイムでの進学状況、学修レベル、学修分野等が調査される。

GDS の様式は、学生が学位授与要件を満たして過程を修了してから数カ月後に、すべての大学の新卒業生に送付され、毎年実施される。

GDS では、修了したコース、就業状況とその詳細、進学等の継続学習に関する実施状況等についての質問がなされるが、これらの回答内容は、大学や在学中の学生にとっての有用な情報となる。本調査の情報は、学生が教育コースやキャリアの選択に際して参考になることや、大学にとっては、キャリア・アドバイザーによるカウンセリング、大学のプログラム評価やアカウンタビリティ、就業および継続学習のより良い学修成果に資するカリキュラム開発や改善に活用することもできる。

#### 卒業生進路調査 (Graduate Destination Survey: GDS) の評価指標

項目	評価指標
一般的コンピテンス	状況対処能力
	計画性・実行性
職業的コンピテンス	卒業後数カ月の就業状況
	継続学習実施状況



## ②コース調査 (Course Experience Questionnaire: CEQ)

CEQ の目的は、高等教育機関在学中の学修経験に関する卒業生の認識についてデータを収集することである。

CEQ によって、一般的技能としての問題解決力、文書伝達力、分析力、否認知的能力としてのチームワーク能力、授業/課題等に対する学生の満足度、またコンピテンスという観点からは、一般的コンピテンスとして、状況対処能力や計画性等が測定される。

CEQ は、前述の GDS と併せて学士号取得者等を対象に実施されている。

### コース調査 (Course Experience Questionnaire: CEQ) の評価指標

項目	評価指標
一般的技能	問題解決力
	文書伝達力
	分析力
否認知的能力	チームワーク能力
	授業/課題等に対する学生の満足度
一般的コンピテンス	状況対処能力
	計画性・実行性

コース調査アンケートの抜粋（2012年 Graduate Careers AUSTRALIA） [35]

所属課程に関する調査	強く否定	否定	どちらでもない	同意	強く同意
教職員は課題に対して多くのコメントをしてくれた。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教師は普段、どのように進めるべきか有用なフィードバックをしてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程はチームメンバーとして活動する能力を高めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程の教師はベストな課題を行う動機づけをしてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程は分析力を高めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教師は説明が非常に上手かった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教師らは授業を面白くしようと多大な努力をしていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程は問題解決力を高めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教職員は課題に係る困難を理解するよう努めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程は私の文書伝達能力を高めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
受講の結果、慣れない状況への対応に自信がついた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程は計画力を高めてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
総じて、所属課程の質に満足した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所属課程の一番良かった面は何ですか？					
所属課程のもっとも改善が必要な面は何ですか？					

出典： < [http://www.graduatecareers.com.au/wp-content/uploads/2012/05/MASTER\\_CEQ\\_APR12.pdf](http://www.graduatecareers.com.au/wp-content/uploads/2012/05/MASTER_CEQ_APR12.pdf)  
> （2014/3/20 アクセス）



### ③卒業生能力調査 (Graduate Skills Assessment: GSA)

大学評価・学位授与機構 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要」 [32]によると、卒業生能力調査は、大学入学および卒業の直前に、学生の一般的なスキルを測定するものである。

卒業生能力調査によって、一般的技能としての批判的思考力、問題解決力、文書表現力、また専門分野別知識と技能、否認知的能力としての対人理解力が測定されている。

これらの分野のスキルは多くの大学で重視されており、卒業生が身につけるべき能力、卒業生に期待されるスキルの一部として認識されている。試験は、多岐選択式の試験と、2つの記述式試験から構成されており、試験時間は多岐選択式が2時間、記述試験が1時間である。

大学は、本試験の結果をもとに、専攻学科間での学生スキルの差異を比較したり、異なるコース間の学生の入学時と卒業時のスキルの変化について知ることができる。

入学時の測定については、大学は、筆記能力の低い学生（文書表現力）、文書読解問題における批判的思考能力（批判的思考力）や、数値的問題解決項目の対処（問題解決力）に問題がある学生を特定するための診断調査として用いることができる。そして、このように診断された学生は大学によるフォロー・アップ・支援を受けることもある。

卒業前の測定の結果については、大学院入学の際の追加的な基準としたり、雇用者が、学生が習得した一般的なスキルの指標として参照することも可能である。

（出典：大学評価・学位授与機構 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要」 P18） [32]

#### 卒業生能力調査 (Graduate Skills Assessment: GSA) の評価指標

項目	評価指標
一般的技能	批判的思考力 critical thinking
	問題解決力 problem solving
	文書表現力 written communication
専門分野別知識と技能	専門分野別知識と技能
否認知的能力	相互理解力 interpersonal understandings

### (3) オーストラリアの評価指標の有用性・課題

#### 1) 学生調査の有用性

オーストラリアの学修成果の評価に関する特徴としては、前述の GDS や CEQ に代表される全国的な学生調査の実施が挙げられる。これら全国的な学生調査の実施により、大学はその学生の卒業後の状況や、在学中の学習経験等に関する学生の認識についてのデータを収集し、ベンチマークの策定や動向分析、学習プログラムの開発・改善等に利用することができる。また、政府等の規制当局においても政策決定の参考情報として利用される。2005年から2009年にかけては「学習及び教育成果資金 (Learning and Teaching Performance Fund)」での資金配分にも利用されている。

#### 2) 標準テスト (GSA) の限界

GSA は、その結果を大学及び企業に活用されること想定して開発され、大学入学時と卒業時に実施、「written communication」、「critical thinking」、「problem solving」、「interpersonal understandings」の4要素を選択式問題と筆記試験によって測るものである。大学単位で申し込むが、当該大学の学生が受検するかどうかは個人の任意である。

ここで、ベネッセ教育総合研究所により行われた、「先導的・大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究 (平成20年度調査 報告書)」[30]では、GSA に関し、その普及に係る状況について、以下のようにまとめられている。

標準テスト		GSA
開発経緯		国から ACER への委託
主な用途		企業採用や大学での教学改善を想定。一部に職業資格取得要件としての利用。
現状		採用大学が減少一途。 政府が補助金で維持。
促進要因	利用に向けた外圧	特になし
	大学側の活用努力	特になし
	テスト機関側の普及努力	・問題解決、批判的思考力など、スキル領域を独立させてサービス開始
主な問題点、批判		・参加強制力がないため、代表性のあるサンプル確保難 ・学問分野の中に文脈に即して存在しているジェネリックスキルを取り出して測定することへの疑問 ・費用負担が重い

ベネッセ教育総合研究所 先導的・大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究 表 4-1-1 (平成20年度調査 報告書) [30]より抜粋

この調査の中で、ジェネリックスキル標準テストである GSA は、開始した 2000 年こそ数千名の受検者があったが、2008 年の受検は 228 名にとどまり、オーストラリアでは普及していない状況が明らかにされている。

「オーストラリアにおける GSA に対する批判の一つは、測定されるジェネリックスキルが学問の文脈から独立しているというものである。スキル・アセスメントの重要な要件の一つが「測定したスキルで具体的に何ができるのか」という予測可能性であるとするれば、GSA は、多様な用途を想定することで、何に対しても曖昧で適用しにくいものになってしまっている可能性がある。既に大学、教員独自の教育評価が存在している状況ではなおのことといえる。

一方、米国の標準テストに対しても多様な批判はあり、複数の評価を併用しているのが常である。そうした中でも、アクレディテーションにおける教育効果の証明という目的を絞ったわかりやすい展開により、そのメリット感が浸透しやすい状況を創出しているといえるだろう。」

（出典：先導的・大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究（平成 20 年度調査 報告書） ベネッセ） [30]

(4) より効果的に成果の把握・評価を行うための事例

1) Review of Higher Education Regulation REPORT[36]

連邦政府は2013年8月「Review of Higher Education Regulation REPORT」[36]を公表した。これは、質の高い高等教育を実現しながら、規制に関する業務負担の軽減を図ることを目的とした調査報告書であり、連邦政府によって委託を受けた、Kwong Lee Dow Ao 教授（メルボルン大学前副学長）と Valerie Braithwaite 教授（オーストラリア国立大学）の2名によってまとめられた。

当該調査報告書では、最終的に11項目の勧告がなされているが、そのうち以下は、オーストラリアの高等教育の質保証における重複の解消問題となっている。

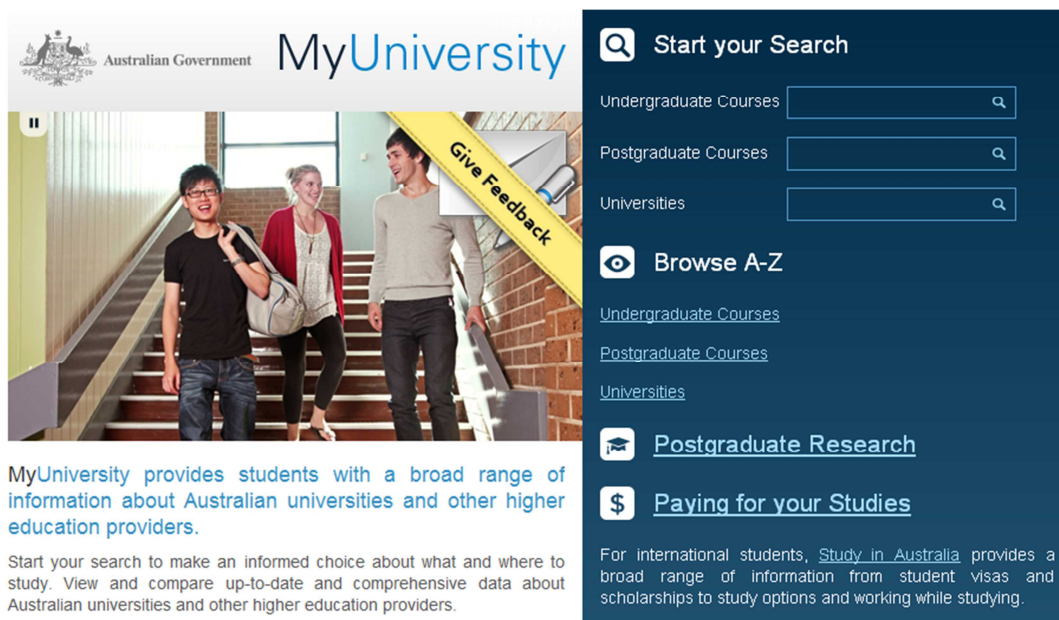
提言 6	政府は、National Code、他の規制団体やパートナー等と調整し、規制構造全体中の重複を削減しなければならない。
提言 8	政府は、4つの法律の重複を削減しなければならない。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Higher Education Support Act 2003</li><li>・ National Vocational Education and Training Act 2011</li><li>・ Education Services for Overseas Students Act 2000</li><li>・ Tertiary Education Quality and Standards Agency Act 2011</li></ul>
提言 9	政府は、ASQA や TEQSA とともに、上記4法の役割を調整する必要がある。
提言 10	政府は、TEQSA とともに、大学等への照会業務やその他の業務で、直ぐに対処可能なものについて、業務の重複に対応する必要がある。

「Review of Higher Education Regulation REPORT」2013年8月より[36]

この提言に対し、TEQSA は、2013年10月に TEQSA's reform agenda を発表した。当該報告では、高等教育の質の維持をしたまま、高等教育機関の負担を軽減するために規制を改善していく考えを明らかにしている。具体的には書類や報告事項の削減、教育機関からの提供情報量の削減、効率的な情報収集、リスクフレームワークの見直し等の負担軽減策の実施を挙げている。

## 2) My University[37]

My University とは、オーストラリアの大学の情報を政府が一元的に集約し、管理運営する web サイトである。My University の狙いは、大学情報の透明性を高め、政府が保証した信頼性の高い情報に基づいて、学生が適切な進路先を選択可能にすることである。



MyUniversity provides students with a broad range of information about Australian universities and other higher education providers.

Start your search to make an informed choice about what and where to study. View and compare up-to-date and comprehensive data about Australian universities and other higher education providers.

上記の My University の web サイトから大学のコースや大学名等をもとに検索でき、学部レベルで詳細な情報を入手することが可能である。

具体的には、合格者基準点 (※)、授業料、施設、交通手段、男女比率、就職率、進学率、卒業状況や学生調査の結果等が検索でき、コースごとに当該情報を一覧で比較することが可能となっている。

(※) 州の統一試験等をもとにした点数、ポイント

(例：合格基準点)

▼ Cut-Off Scores (ATAR)		
Previous ATAR cut-off scores (non-Queensland) ?		
	2013	2012
Commonwealth supported students (formerly known as 'HECS' places)	53.70	52.00
Domestic fee-paying students	N/A	N/A

▼ Cut-Off Scores (OP/Rank)		
Previous OP/Rank cut-off scores (Queensland only) ?		
	2013	2012
Commonwealth supported students (formerly known as 'HECS' places)	19/61	19/61
Domestic fee-paying students	N/A	N/A

---

## 2. 学修成果を重視した評価を行うために望ましい客観的評価指標・手法

---

これまでの分析及び考察を踏まえ、ここでは各大学における学修成果の把握と評価や、各認証評価機関の評価基準等の設定の参考になるよう、学修成果を重視した評価を行うために望ましい評価手法を提言する。

### 2.1 改善提案

---

#### 2.1.1 学修成果の把握・評価について

##### (1) 学修成果の定量化に向けた取り組み

今回のアンケート調査から、学修成果の把握・評価に関して大学としても積極的に取り組んでいきたいという前向きな姿勢が窺えたが、どのように学習成果を把握・評価すればよいのかが分からない、評価手法及び指標が明確となっていないことに対する課題意識も垣間見えたところである。

また、現在の学修成果の評価について、主観的な判断に基づく定性的評価が中心となっているように思われる。もちろん、学修成果として捉えられる指標群は「(2) 1) ③今回の調査で実施したアンケート調査結果」に示したように多岐にわたっている。また、定量的な測定が馴染むものと定性的な測定（或いは測定にまで至らない指標もあるかもしれない）に留まるものが存在しており、すべてを定量的に把握することには限界がある。

一方で、他大学との比較によって、相対的な大学のポジションを明確にし、改善に向けた目標設定を行うことも重要であり、定量的な把握が可能な指標については指標の標準化（計算方法・前提条件等）によって、大学間比較を可能とすることが望まれる。

学修成果は多岐にわたっており、学部や学科によって内容が異なる専門的能力については、定量的な測定比較が馴染まないケースもあると思われるが、たとえば基本的な能力（キー・コンピテンシー）については、学修成果を共通的な指標で比較することも可能と考えられる。

そういう意味では、米国における CLA、MAPP、CAAP などや、オーストラリアにおける GSA、桜美林大学の事例で確認した民間企業における能力テスト結果等による定量化指標等による把握が参考となろう。もっとも、前述のように、オーストラリアにおける GSA は普及出来なかったことや、米国においても、多様な大学の専門性やゴールを考慮できていないという批判、各大学の教育目標やカリキュラムとの整合、学生のモチベーションやサンプル数について課題が挙げられている。日本においても、大学がそういうテスト対策に走る結果、多様性のある基礎教育が失われ画一的になる危険性や、普及に向けた課題が存在するといえよう。

また、学修成果の把握にあたり、アンケート等の定性的な情報を入手している場合がある。定性的な情報であっても、例えば満足度等のアンケート結果について伸び率を定量化

し、この伸び率を経年比較することも有用であると考え。

## (2) 学修成果の把握・評価方法等に係るギャップの解消

今回の調査において、学修成果に関して現状とあるべき姿に関する相違（ギャップ）が見られた。以下では、どのようなギャップが存在し、解消に向けてどのような取り組みが必要となるのか整理する。

### 1) 学修成果の把握に向けた公的な枠組み整備の必要性

各大学へのアンケートの回答の中で、例えば社会力等について実際に実施（把握）している方法・情報と、有用と考える方法・情報にギャップがある場合があった。つまり、各大学は把握の必要性を認識しているものの、実際には把握が困難な情報であることを表している。

大学単独で把握することが困難な指標群については、英国における全国学生調査やオーストラリアにおける GDS/CEQ などを参考として、より公的かつ全国的な調査方法により必要となる情報を収集し、各大学に適切にフィードバックすることによって、各大学の取り組むべき課題を明確にし、学修成果の把握とそれに基づく改善に向けた方向性を指し示すことも可能と考えられる。

### 2) 学修成果の把握に係る社会（企業等）との認識共有の必要性

多くの大学生は大学での教育を経て民間企業や官公庁等に就職する。そういう意味で、今回、民間企業における学修成果に対するニーズとのギャップを把握することは有用と考え、民間企業に対しても学修成果に関するアンケート調査を実施した。

民間企業へのアンケートを分析したところ、民間企業が期待する評価指標・能力と大学が重視する評価指標・能力にギャップがみられた。具体的には、一般教養力や問題解決能力について、大学よりも企業側の期待が大きく、また社会力に関しても大学より企業側で重視する姿勢がみられた。これらの調査結果について、更に分析を行うことの必要性が示唆される。

もちろん、大学教育の内容を民間企業におけるニーズにすべて適合させる必要はないし、企業におけるニーズも業種業態によって様々であると想定されるが、学修成果に関して最も利害関係を有する学生において、卒業後の社会人生活に向けて大学でどのような学修成果を獲得できるかは、重要な大学選択基準となっている。顧客ニーズへの対応という観点で考えた場合、企業など社会が求める学修成果への対応は今後ますます重要になるであろう。

各大学においてこれらのギャップの存在を認識し、対応の要否を検討する必要があると考える。

### (3) 学修成果の把握・評価に関するその他の論点

#### 1) 学修成果の把握結果のカリキュラム等へのフィードバックについて

アンケート結果を分析したところ、学修成果を把握している大学は多いが、カリキュラムへの反映や学生に対するフィードバックが不十分な場合が多く見受けられた。この点に対しては、フィードバックの仕組みを組織的に構築する必要があると考える。

#### 2) 学部・学科ごとの学修成果の定義・設定の必要性について

学修成果の把握に関して、学部・学科毎ではなく、大学全体で実施されているケースが多く見られた。もちろん、大学全体で共通的に把握できる指標群も存在すると思われるが、学修の違いを適切に反映して学修成果を把握する観点からは、学部・学科ごとの要素を織り込んだ、学部ごとの学修成果の評価手法の確立・運用が必要であると考えられる。

### 2.1.2 学修成果に係る認証評価上の取扱いについて

#### (1) 学修成果に係る評価基準の明確化

学修成果は多様性や複雑性に富んだ概念である。これを認証評価という形で外部評価しようとした場合、様々な困難が生ずることになる。

現状の認証評価においては、設置基準等で要求される事項（卒業の認定における基準の有無、単位の授与に関する基準の有無等）を満たしていない場合に、要改善事項として指摘を行い大学側に一定の対応を求めると、「法令上の義務に対してどう対応しているか」という評価が中心となっている。

しかしながら、社会が大学に求める期待水準は高く、認証評価機関に求められる評価内容への期待水準も更に高まっていると考えられる。

より踏み込んだ形で、各大学が学修成果を把握・評価し、向上させるための大学の継続的な取り組み・プログラムの内容や学内における評価改善サイクルの手法の適切性・有効性を評価対象とすることが適当と考えられる。

#### (2) 認証評価機関による評価の簡素化と大学側のインセンティブ

今回実施したアンケートでは、認証評価機関の評価について、評価基準が曖昧であるといった意見や、対応のための事務量が多くなっており、評価を受ける側の負担感が強まっている（いわゆる「評価疲れ」）といった意見が散見された。

諸外国でも、認証評価に係る負担の軽減は議論となっており、英国においては、2011-12期から導入されている機関レビューや、2013-14期から導入される高等教育レビューにおいて、現地調査日数の削減や、評価側の独自の情報収集による提出情報の削減、リスクアプローチによる評価頻度の軽減のような、負担軽減のための施策を導入している。また、オーストラリアでは2013年8月に公表された「**Review of Higher Education Regulation REPORT**」[36]による提言、及びその提言への対応として評価体制の簡素化が図られている。



これらの取り組みのような、評価を受ける側の負担を軽減するための各種の施策を検討すべきである。

一方で、認証評価に係る負担感の増大や「評価疲れ」といった意見が大学側から出される背景として、認証評価を受けることや、認証評価で高い評価を受けることのメリットを大学側があまり感じていないことも背景にあると考えられる。どのようにすれば、認証評価を受けることの積極的な意義が見出せるのか検討が必要である。

たとえば、現状の認証評価においても認証評価の過程で検出された特に優れた取り組みについては、認証評価結果において言及（指摘）されており、優れた取り組みを社会に広く認知させる取り組みは存在するものの、個々の認証評価結果の社会的な認知度は低く、認証評価が社会的なインパクトを与えるまでには至っていない。

この点、米国の CHEA では 2005 年から学修成果の把握に関して成果のある大学を表彰してきており、英国の QAA でも年次報告で模範事例を紹介するなどして、改善に向けた取り組みを促している。

大学側にも認証評価を受けること、また高い評価を得ることのインセンティブが働くよう、表彰制度による社会へのアピールを検討すべきである。また、国においては、高い評価を獲得した教育機関に対して、財源配分面での考慮を行う等金銭的な面を含めた仕組みの構築が必要であると考えられる。

## 2.2 総括～望ましい評価手法の提案～

(ポートフォリオ等を用いた加重平均による学修成果の評価手法)

大学毎に育成すべき人材像が異なるため、共通の単一的な学修成果評価指標では、各大学の特色を反映しないという限界がある。これらの解決法としては、文献調査、アンケート調査、訪問調査、海外調査の結果、以下の対応が考えられる。

1. どのような人材を育成したいかについて各大学が目的（目標）を明確にする
2. 当該目的区分ごとに統一的な複数の標準的指標、判断基準(※1)を文部科学省等が例示
3. 各大学は、自身の目的に沿って 2. の数値を調査し、公表する。ただし、各大学によって、各指標の重みは異なるため、各大学独自のポートフォリオを作成し、総合的な学修成果の評価・公表を行う。（なお、各指標の加重は公表する。）
4. 外部機関は、3. の学修成果の評価・公表が客観的なデータをもとに継続的に調査されていることを確認する。

(※1)一部の大学で先行導入されているルーブリックや IR (Institutional Research) をもとに判断基準を作成。

たとえば、グローバル社会で活躍する人材の育成の達成度評価を目的とした場合では、TOEIC・TOFEL、検定試験結果の状況、留学率、卒業後の進路、各大学におけるテスト結果、単位の取得状況等を標準的な指標とし、大学毎に各指標の加重を判断し、総合的な学修成果の評価を行うことが考えられる。

(例) 大学の目標：グローバル社会で活躍する人材の育成

項目	①素点 ※1 (100点中)	②割合 ※2	③点数 (①×②)
TOEIC・TOFEL	80点	30%	24点
留学率	30点	10%	3点
卒業後の進路	60点	5%	3点
大学のテスト結果	75点	20%	15点
単位の取得状況	90点	20%	18点
卒業論文	80点	15%	12点
合計	-	100%	<b>75点 (学修成果)</b>

※1 一定のガイドラインを関係機関が例示

※2 大学がどの項目に割合をおいているかによって独自に判断

※3 一定時点からの伸び率でも可

当該手法を用いれば、学修成果の把握において、各大学独自の考え方を踏襲しつつ、標準化の要請も図れるようになる。ただし、育成したい人材像は朝日新聞、河合塾の共同調査によると 9 割以上が定めているものの、文部科学省等がどの程度まで目標をグルーピングして例示を示すかについては、さらなる実態を調査したうえで検討を行う必要がある。

また、外部機関は、上記①素点が客観的なデータをもとに継続的に調査されていることを確認する。

上記を参考に、大学間の健全かつ前向きな競争や PDCA サイクルが確立され、その結果、学生に還元され、わが国の自主的・持続的な発展につながる仕組みが構築されることが望まれる。

以上

参考文献リスト(本文脚注)

- [1] 文部科学省,「文部科学白書」, (2012):  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201301/1338525.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201301/1338525.htm) (参照:2014年3月14日)
- [2] 文部科学省,「認証評価制度の見直しの検討の方向性に関する資料」:  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/\\_icsFiles/afieldfile/2013/10/04/1340056\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2013/10/04/1340056_1_1.pdf) (参照:2014年2月26日)
- [3] 洪井進 他,「学習成果に係る標準指標の設定に向けた検討:国立大学法人評価における評価結果報告書の分析から」, (2012):  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/gakujutsushi/mgzn13/no9\\_16\\_shibui\\_no13\\_01.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/gakujutsushi/mgzn13/no9_16_shibui_no13_01.pdf) (参照:2014年3月14日)
- [4] 朝日新聞×河合塾,「ひらく 日本の大学」, 第1回」, (2012):  
[http://www.keinet.ne.jp/gl/12/04/hiraku\\_1204.pdf](http://www.keinet.ne.jp/gl/12/04/hiraku_1204.pdf) (参照:2014年3月14日)
- [5] 朝日新聞×河合塾,「ひらく 日本の大学」, 第4回」, (2012):  
[http://www.keinet.ne.jp/gl/12/11/hiraku\\_1211.pdf](http://www.keinet.ne.jp/gl/12/11/hiraku_1211.pdf) (参照:2014年3月14日)
- [6] 朝日新聞×河合塾,「ひらく 日本の大学」, 第5回」, (2013):  
[http://www.keinet.ne.jp/gl/13/04/hiraku\\_1304.pdf](http://www.keinet.ne.jp/gl/13/04/hiraku_1304.pdf) (参照:2014年3月14日)
- [7] 齋藤聖子 他,『大学の「学習成果」を軸とした教育・評価・エビデンスの発信を可能とする体制についての研究』, (2009):  
[http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2010/06/02/no8\\_gakusyuseikatyukan100531.pdf](http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2010/06/02/no8_gakusyuseikatyukan100531.pdf) (参照:2014年3月14日)
- [8] 関西国際大学  
学長 濱名 篤,「中央教育審議会高等学校教育部会  
ルーブリックを活用したアセスメント」, (2012):  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siry/\\_icsFiles/afieldfile/2012/12/07/1328509\\_05.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siry/_icsFiles/afieldfile/2012/12/07/1328509_05.pdf) (参照:2014年3月17日)
- [9] 東北福祉大学,「TFU リエゾンゼミ・ナビ 『学びとの出会い』: 第1章 学びの基本」, (2012):  
[http://www.tfu.ac.jp/liaison/edu/navi\\_PDF/navi01-08.pdf](http://www.tfu.ac.jp/liaison/edu/navi_PDF/navi01-08.pdf) (参照:2014年2月22日)
- [10] QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "The UK Quality Code for Higher Education:A brief guide":  
<http://www.qaa.ac.uk/publications/informationAndGuidance/Documents/quality-code-brief-guide.pdf> (参照:2014年1月19日)
- [11] QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "Subject benchmark statements":  
<http://www.qaa.ac.uk/AssuringStandardsAndQuality/subject-guidance/Pages/Subject-benchmark-statements.aspx#top> (参照:2014年1月19日)
- [12] QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "Law 2007", (2007):  
<http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/Law07.pdf> (参照:2014年1月19日)
- [13] 深堀聡子,「学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究(研究成果報告書)」, (2012): [http://www.nier.go.jp/koutou/seika/rpt\\_01/pdf/01\\_cover.pdf](http://www.nier.go.jp/koutou/seika/rpt_01/pdf/01_cover.pdf) (参照:2014年1月29日)

- [14] QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "The UK Quality Code for Higher Education: Chapter A6: Assessment of intended learning outcomes": <http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/Quality-Code-Chapter-A6.pdf> (参照:2014年1月19日)
- [15] QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "The UK Quality Code for Higher Education:Chapter B6: Assessment of students and the recognition of prior learning": <http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/B6.pdf> (参照:2014年1月19日)
- [16] HEFCE, "Student satisfaction at a nine-year high", <http://www.hefce.ac.uk/news/newsarchive/2013/news82928.html> (参照:2014年3月7日)
- [17] HEFCE, "Early evaluation of the Unistats web-site", <http://www.hefce.ac.uk/news/newsarchive/2013/news81829.html> (参照:2014年3月7日)
- [18] 桜美林大学, "桜美林大学 HP", <http://www.obirin.ac.jp/> (参照:2014年3月10日)
- [19] HEFCE, "The wider information set", <http://www.hefce.ac.uk/whatwedo/lt/publicinfo/widerinfo/> (参照:2014年3月7日)
- [20] Graham Gibbs, " Implications of dimensions of quality in a market environment ", (2012) :[http://www.heacademy.ac.uk/assets/documents/evidence\\_informed\\_practice/HEA\\_Dimensions\\_of\\_Quality\\_2.pdf](http://www.heacademy.ac.uk/assets/documents/evidence_informed_practice/HEA_Dimensions_of_Quality_2.pdf) (参照:2014年3月21日)
- [21] Higher Education in England, "An OFT Call for Information, Office of Fair Trading", (March 2014) : [http://www.of.gov.uk/shared\\_of/markets-work/OFT1529.pdf](http://www.of.gov.uk/shared_of/markets-work/OFT1529.pdf) (参照:2014年3月21日)
- [22] 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 林 隆之他, 「大学評価のメタ評価に関する調査研究報告書」, (2012): <http://svrrd2.niad.ac.jp/faculty/hayashi/meta.pdf> (参照:2014年1月29日)
- [23] 独立行政法人 大学評価・学位授与機構, 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 アメリカ合衆国」, (2010): [http://www.niad.ac.jp/english/overview\\_us\\_j.pdf](http://www.niad.ac.jp/english/overview_us_j.pdf) (参照:2014年1月29日)
- [24] 独立行政法人日本学生支援機構, 「アメリカにおける奨学制度に関する調査報告書」, (2012): [http://www.jasso.go.jp/statistics/scholarship\\_us/documents/report1.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/scholarship_us/documents/report1.pdf) (参照:2014年2月26日)
- [25] College Portrait , "College Portrait ", <http://www.collegeportraits.org/> (参照:2014年3月21日)
- [26] COLLEGE Navigator, "COLLEGE Navigator", <https://nces.ed.gov/collegenavigator/> (参照:2014年3月21日)
- [27] 前田早苗, 「中央教育審議会大学分科会 質保証システム部会(第15回)配布資料 米国西部地区基準協会(Western Association of Schools and Colleges)のアクレディテーションについて」, (2010): [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/027/siryu/\\_icsFiles/afieldfile/2010/04/08/1292211\\_4.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/027/siryu/_icsFiles/afieldfile/2010/04/08/1292211_4.pdf) (参照:2014年1月29日)
- [28] 財団法人 大学基準協会, 『大学評価シンポジウム報告書「アウトカム・アセスメントの構築に向けて—内部質保証システム確立の道筋—』』, (2012): [http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/symposium/h24\\_symposium\\_report.pdf](http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/symposium/h24_symposium_report.pdf) (参照:2014年1月29日)

- [29] Deborah Nusche 著, 深堀 聰子訳, 「高等教育における学習成果アセスメント-特筆すべき事例の比較研究-OECD 教育関連ワーキングペーパーNO.15」, (2008):  
<http://www.oecd.org/edu/skills-beyond-school/41771582.pdf> (参照:2014 年 1 月 29 日)
- [30] ベネッセ教育総合研究所, 「先導的・大学改革推進委託事業 大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究(平成 20 年度調査報告書)」, (2008):  
[http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakushi\\_ryoku/pdf/data\\_04.pdf](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakushi_ryoku/pdf/data_04.pdf) (参照:2014 年 1 月 7 日)
- [31] CHEA, "Effective Institutional Practice in Student Learning Outcomes: CHEA Award Recipients", (2013): [http://www.chea.org/chea%20award/CHEA\\_Awards\\_All.html](http://www.chea.org/chea%20award/CHEA_Awards_All.html) (参照:2014 年 2 月 12 日)
- [32] 独立行政法人大学評価・学位授与機構, 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 オーストラリア」, (2010): [http://www.niad.ac.jp/english/overview\\_og\\_j.pdf](http://www.niad.ac.jp/english/overview_og_j.pdf) (参照:2014 年 1 月 7 日)
- [33] 独立行政法人大学評価・学位授与機構 杉本 和弘, 「オーストラリア大学質保証機構によるオーディット—その原理・方法と新たな展開—」, (2009):  
[http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2009/04/23/no9\\_16\\_sugimoto\\_no9\\_01.pdf](http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2009/04/23/no9_16_sugimoto_no9_01.pdf) (参照:2014 年 3 月 4 日)
- [34] Australian Universities Quality Agency. AUQA Audit Manual, Version 6.0,2009, Australia
- [35] Graduate Careers Australia (GCA) , "Australian Graduate Survey", (2012):  
[http://www.graduatemasters.com.au/wp-content/uploads/2012/05/MASTER\\_CEQ\\_APR12.pdf](http://www.graduatemasters.com.au/wp-content/uploads/2012/05/MASTER_CEQ_APR12.pdf) (参照:2014 年 3 月 21 日)
- [36] Kworng Lee Dow AO, Valerie Braithwaite. Review of Higher Education Regulation REPORT,2013, Australia
- [37] Australian Government, "My University", <http://myuniversity.gov.au/> (参照:2014 年 3 月 21 日)

参考文献リスト(本文脚注以外)

- QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "Changes to the Academic Infrastructure:final report", (2011):  
<http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/qualitycode.pdf> (参照:2014 年 1 月 19 日)
- QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "Higher Education Review: A handbook for providers", (2013):  
<http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/HER-handbook-13.pdf> (参照:2014 年 1 月 19 日)
- QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education), "Annual report to the Higher Education Funding Council for England", (2013):  
<http://www.qaa.ac.uk/Publications/InformationAndGuidance/Documents/Annual-report-to-HEFCE-2013.pdf> (参照:2014 年 1 月 19 日)
- 大学評価フォーラム, 「大学評価の戦略的活用と方法 報告書」, (2008):  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_kenkyukai/no13\\_2008forum\\_report.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/no13_2008forum_report.pdf) (参照:2013 年 12 月 14 日)
- 独立行政法人大学評価・学位授与機構, 「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 英国」, (2008): [http://www.niad.ac.jp/english/overview\\_uk\\_j.pdf](http://www.niad.ac.jp/english/overview_uk_j.pdf) (参照:2014 年 1 月 8 日)
- 日本私立大学協会, 「アルカディア学報 (No.475 英国連立政権下の大学改革 アカデミック・インフラの再構築)」, (2012): <http://www.riihe.jp/riihe/research/arcadia/0475.html> (参照:2014 年 1 月 19 日)

文部科学省, 「大学ポートレート(仮称)準備委員会  
第1回～第5回議事録・配布資料」, (2012): <http://portal.niad.ac.jp/ptrt/index.html> (参照:  
2014年3月14日)

文部科学省, 「大学改革実行プラン」, (2012):  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/06/1321798.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm) (参照:2014年3月17日)

Graduate Careers Australia (GCA), "Research and Statistics",  
<http://www.graduatecareers.com.au/research/> (参照:2014年3月21日)

UNISTATS, "UNISTATS - Search Results", <http://unistats.direct.gov.uk/searchresults/>  
(参照:2014年3月7日)

独立行政法人大学評価・学位授与機構, "国際連携・調査事業 オーストラリア",  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_kokusai/qa/1191802\\_1542.html](http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/qa/1191802_1542.html) (参照:2014年3月4日)

立命館大学, "IR プロジェクト", <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/irp/> (参照:2014年3月17  
日)

早田幸政・船戸高樹, 「よくわかる大学の認証評価」, (2006), エイデル研究所

## IV. 付録

---



大学向けアンケート

平成25年度 文部科学省 先導的大学改革推進委託事業 「学修成果の把握と学修成果の評価についての具体的方策に関する調査研究」アンケート																			
<p><b>本調査票へご回答いただく上での注意事項</b>                      設問及び注釈をご確認の上、ご回答いただきますようお願いいたします。                      [グレー] グレーの部分が回答欄となります。                      ※回答にあたりましては、Excelのマクロを有効にしてください。                      ※所定の回答欄以外への入力・編集はお控えください。                      ※データの集計作業のため、行や列の挿入・削除はお控えください。</p>																			
<p><b>1. 全般的事項</b>                      1-1. 大学名をご記入ください。</p> <p>大学名</p>																			
<p>1-2. ご担当者様と責任者様の連絡先などをご記入ください。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%;">責任者</th> <th style="width: 25%;">担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部署名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>役職</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>e-mail</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			責任者	担当者	部署名			役職			氏名			電話			e-mail		
	責任者	担当者																	
部署名																			
役職																			
氏名																			
電話																			
e-mail																			
<p>1-3. 貴学のプロフィールについてお答えください。</p> <p>設置者の別</p> <p><input type="radio"/> 1. 国立  <input type="radio"/> 2. 公立  <input type="radio"/> 3. 私立  <input type="radio"/> 4. 株式会社立</p> <p>所在地（都道府県）※1</p> <p>大学の設置年（西暦）</p> <p>大学の種類</p> <p><input type="radio"/> 1. 人文・社会系  <input type="radio"/> 2. 理工系  <input type="radio"/> 3. 歯歯系  <input type="radio"/> 4. 総合系  <input type="radio"/> 5. その他（下記記入）                      （ここに具体的学問分野をご記載ください）</p> <p>学士課程学生数（人）※2</p> <p>大学院学生数（人）※2</p> <p>職員数（人）※2</p> <p>教員数（人）※2</p> <p>※1 二つ以上の都道府県にまたいで設置している大学においては、本部所在地をご記入ください。                      ※2 平成25年5月1日の学校基本調査の数値をお答えください。</p>																			
<p><b>2. 学修成果について、貴学としてあてはまるものにご回答ください</b>                      2-1. 学修成果の内容及び評価方法について</p> <p>学修成果の内容を定めていますか</p> <p><input type="radio"/> はい  <input type="radio"/> いいえ                      はいの場合→内容（自由記述）</p> <p>教育目的を定めていますか（複数選択可）</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 大学全体で定めている  <input type="checkbox"/> 2. 学部ごとで定めている  <input type="checkbox"/> 3. 定めていない  <input type="checkbox"/> 4. その他                      （その他の場合、ここに具体的内容をご記載ください）</p> <p>ディプロマポリシー（学位授与の方針）を定めていますか（複数選択可）</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 大学全体で定めている  <input type="checkbox"/> 2. 学部ごとで定めている  <input type="checkbox"/> 3. 定めていない  <input type="checkbox"/> 4. その他                      （その他の場合、ここに具体的内容をご記載ください）</p> <p>カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めていますか（複数選択可）</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 大学全体で定めている  <input type="checkbox"/> 2. 学部ごとで定めている  <input type="checkbox"/> 3. 定めていない  <input type="checkbox"/> 4. その他                      （その他の場合、ここに具体的内容をご記載ください）</p> <p>アドミッションポリシー（入学受入れの方針）を定めていますか（複数選択可）</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 大学全体で定めている  <input type="checkbox"/> 2. 学部ごとで定めている  <input type="checkbox"/> 3. 定めていない  <input type="checkbox"/> 4. その他                      （その他の場合、ここに具体的内容をご記載ください）</p>																			

大学向けアンケート

2-2. 学修について、貴学で重視し測定しているアウトカムズがありましたら、定性的に測定している場合は「定性」に、数値により定量的に測定している場合は「定量」にチェックを入れて下さい。また、「定性」「定量」ともに測定している場合には、二つともチェックを入れて下さい。

※ 定量の場合→測定指標を具体的に記載して下さい（自由記述）

右記の能力を身につけることができたか否か	一般教養力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	批判的思考力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	問題発見能力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	問題解決能力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	英語力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	プレゼンテーション・コミュニケーション能力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	情報収集・情報分析力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	読解力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	創造的思考力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	異文化理解力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	論理的思考力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	リーダーシップ力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	文章力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
	専門知識力	定性	<input type="checkbox"/>	
		定量	<input type="checkbox"/>	
専門技術力	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		
IT力	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		
協調力	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		
数理能力	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		
多角的な視点でものごとを考える能力	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		
その他	定性	<input type="checkbox"/>		
	定量	<input type="checkbox"/>		

※定性情報、定量情報の両方を測定している場合は、二つともチェックを入れて下さい。

2-3. 学修成果の評価方法について、あてはまるものすべてチェックを入れてください。

学修成果を点検・評価する方法をお選びください ※ (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 学生との面談
<input type="checkbox"/> GPA制度
<input type="checkbox"/> 学生へのアンケート
<input type="checkbox"/> 卒業生へのアンケート
<input type="checkbox"/> 企業へのアンケート
<input type="checkbox"/> 授業等における課題やテスト
<input type="checkbox"/> 授業等における学生の発表やパフォーマンス
<input type="checkbox"/> ルーブリック
<input type="checkbox"/> ポートレート
<input type="checkbox"/> 学生ポートフォリオ
<input type="checkbox"/> 学生カルテ
<input type="checkbox"/> 学内で作成している統一テスト
<input type="checkbox"/> 外部で作成されている/市販されている統一テスト
<input type="checkbox"/> 卒業論文・卒業研究
<input type="checkbox"/> キャップストーン制度（地域連携）
<input type="checkbox"/> アセスメントテスト
<input type="checkbox"/> その他
(ここに具体的評価方法をご記載ください)

※貴学で行っている学修成果を点検・評価する方法について内容のわかる既存の資料があれば併せてお送りください。

大学向けアンケート

2-4. 学修成果の評価について、実際に実施（把握）している方法／情報、あるいは有用と考える方法／情報に関して あてはまるものすべてチェックを入れてください。			
	実際に実施（把握）している方法/情報		有用と考える方法/情報
<b>教育環境</b>	<input type="checkbox"/> アカデミック・アドバイザー制度		<input type="checkbox"/> アカデミック・アドバイザー制度
	<input type="checkbox"/> ティーチング・アシスタント制度		<input type="checkbox"/> ティーチング・アシスタント制度
	<input type="checkbox"/> 履修指導の充実化		<input type="checkbox"/> 履修指導の充実化
	<input type="checkbox"/> 教育体系の可視化		<input type="checkbox"/> 教育体系の可視化
	<input type="checkbox"/> 身につけるべき能力の可視化と履修科目との関連付け		<input type="checkbox"/> 身につけるべき能力の可視化と履修科目との関連付け
	<input type="checkbox"/> キャップ制の導入（※その場合の年間履修登録 単位数の上限は何単位か）		<input type="checkbox"/> キャップ制の導入（※その場合の年間履修登録 単位数の上限は何単位か）
	<input type="checkbox"/> オフィスアワー制度の実施		<input type="checkbox"/> オフィスアワー制度の実施
	<input type="checkbox"/> アドバイザー制度の実施		<input type="checkbox"/> アドバイザー制度の実施
	<input type="checkbox"/> 担任制の実施		<input type="checkbox"/> 担任制の実施
	<input type="checkbox"/> 授業における課題やテストの工夫		<input type="checkbox"/> 授業における課題やテストの工夫
	<input type="checkbox"/> アクティブラーニング（ディベート、ディスカッションなど）		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング（ディベート、ディスカッションなど）
	<input type="checkbox"/> 問題解決型教育の実施		<input type="checkbox"/> 問題解決型教育の実施
	<input type="checkbox"/> 少人数教育		<input type="checkbox"/> 少人数教育
	<input type="checkbox"/> 授業におけるWEBの活用		<input type="checkbox"/> 授業におけるWEBの活用
	<input type="checkbox"/> 授業外学修時間数の把握		<input type="checkbox"/> 授業外学修時間数の把握
	<input type="checkbox"/> 先進的プログラム（GPやCOEプログラムなど）の数		<input type="checkbox"/> 先進的プログラム（GPやCOEプログラムなど）の数
	<input type="checkbox"/> ゼミ（研究室）所属率		<input type="checkbox"/> ゼミ（研究室）所属率
	<input type="checkbox"/> 学級の人数		<input type="checkbox"/> 学級の人数
	<input type="checkbox"/> 学生1人あたり図書数		<input type="checkbox"/> 学生1人あたり図書数
	<input type="checkbox"/> 学生一人あたりの教育研究経費支出額		<input type="checkbox"/> 学生一人あたりの教育研究経費支出額
	<input type="checkbox"/> 学年別学修時間		<input type="checkbox"/> 学年別学修時間
	<input type="checkbox"/> 教育研究充実度（総支出等に占める教育研究費比率）		<input type="checkbox"/> 教育研究充実度（総支出等に占める教育研究費比率）
	<input type="checkbox"/> 教員1人あたり学生数		<input type="checkbox"/> 教員1人あたり学生数
	<input type="checkbox"/> 施設老朽化比率		<input type="checkbox"/> 施設老朽化比率
	<input type="checkbox"/> 図書館の利用頻度		<input type="checkbox"/> 図書館の利用頻度
	<input type="checkbox"/> GPA		<input type="checkbox"/> GPA
<b>学位取得</b>	<input type="checkbox"/> 卒業論文		<input type="checkbox"/> 卒業論文
	<input type="checkbox"/> パートタイム学生の卒業率		<input type="checkbox"/> パートタイム学生の卒業率
	<input type="checkbox"/> 進級者数、留年者数、大学院への飛び級者数の年次変化		<input type="checkbox"/> 進級者数、留年者数、大学院への飛び級者数の年次変化
	<input type="checkbox"/> 卒業者数		<input type="checkbox"/> 卒業者数
	<input type="checkbox"/> 卒業率		<input type="checkbox"/> 卒業率
	<input type="checkbox"/> 退学率		<input type="checkbox"/> 退学率
	<input type="checkbox"/> 休学率		<input type="checkbox"/> 休学率
	<input type="checkbox"/> 留年率		<input type="checkbox"/> 留年率
	<input type="checkbox"/> 大学院進学率		<input type="checkbox"/> 大学院進学率
	<input type="checkbox"/> 大学院入試合格率		<input type="checkbox"/> 大学院入試合格率
	<input type="checkbox"/> 単位取得率		<input type="checkbox"/> 単位取得率
<input type="checkbox"/> 博士授与数		<input type="checkbox"/> 博士授与数	
<input type="checkbox"/> 標準修業年限内卒業率		<input type="checkbox"/> 標準修業年限内卒業率	
<input type="checkbox"/> 編入率		<input type="checkbox"/> 編入率	
<b>国際性</b>	<input type="checkbox"/> 海外留学体験プログラム		<input type="checkbox"/> 海外留学体験プログラムの有無
	<input type="checkbox"/> 留学生数・割合		<input type="checkbox"/> 留学生数・割合
	<input type="checkbox"/> 英語コースの開設数		<input type="checkbox"/> 英語コースの開設数
	<input type="checkbox"/> TOEIC, TOEFL等の語学試験点数		<input type="checkbox"/> TOEIC, TOEFL等の語学試験点数
	<input type="checkbox"/> 海外留学者数、海外留学割合		<input type="checkbox"/> 海外留学者数、海外留学割合
<input type="checkbox"/> 単位互換制度受入大学数		<input type="checkbox"/> 単位互換制度受入大学数	
<b>資格取得</b>	<input type="checkbox"/> （歯科）医師、薬剤師等の国家試験合格者数		<input type="checkbox"/> （歯科）医師、薬剤師等の国家試験合格者数
	<input type="checkbox"/> 教職単位取得者数		<input type="checkbox"/> 教職単位取得者数
	<input type="checkbox"/> 教員免許状取得数		<input type="checkbox"/> 教員免許状取得数
	<input type="checkbox"/> 司法、公認会計士、公務員試験合格等資格試験合格者数		<input type="checkbox"/> 司法、公認会計士、公務員試験合格等資格試験合格者数
<b>就職</b>	<input type="checkbox"/> JABEE（日本技術者教育認定機構）取得者数		<input type="checkbox"/> JABEE（日本技術者教育認定機構）取得者数
	<input type="checkbox"/> インターンシップ参加学生数		<input type="checkbox"/> インターンシップ参加学生数
	<input type="checkbox"/> 海外企業へのインターンシップ参加学生数		<input type="checkbox"/> 海外企業へのインターンシップ参加学生数
	<input type="checkbox"/> SPI試験成績		<input type="checkbox"/> SPI試験成績
	<input type="checkbox"/> 求人者数		<input type="checkbox"/> 求人者数
	<input type="checkbox"/> 就職率		<input type="checkbox"/> 就職率
	<input type="checkbox"/> 卒業後6カ月後の就職先分野		<input type="checkbox"/> 卒業後6カ月後の就職先分野
<input type="checkbox"/> 卒業後の進路		<input type="checkbox"/> 卒業後の進路	
<input type="checkbox"/> 退職後の再就職率		<input type="checkbox"/> 退職後の再就職率	

大学向けアンケート

<b>社会力</b>	<input type="checkbox"/> 30歳年収	<input type="checkbox"/> 30歳年収
	<input type="checkbox"/> 卒業40カ月後の給与データ	<input type="checkbox"/> 卒業40カ月後の給与データ
	<input type="checkbox"/> 管理職への昇格率	<input type="checkbox"/> 管理職への昇格率
	<input type="checkbox"/> 社長数	<input type="checkbox"/> 社長数
	<input type="checkbox"/> 上場企業役員数	<input type="checkbox"/> 上場企業役員数
	<input type="checkbox"/> 卒業6か月後の給与金額	<input type="checkbox"/> 卒業6か月後の給与金額
	<input type="checkbox"/> グローバル力量調査 (海外居住/海外インターンシップ経験、 TOEIC等の点数等)	<input type="checkbox"/> グローバル力量調査 (海外居住/海外インターンシップ経験、 TOEIC等の点数等)
<b>満足度</b>	<input type="checkbox"/> 授業評価（アンケート）による授業理解度	<input type="checkbox"/> 授業評価（アンケート）による授業理解度
	<input type="checkbox"/> 学部別志願者数の推移	<input type="checkbox"/> 学部別志願者数の推移
	<input type="checkbox"/> 到達度自己評価	<input type="checkbox"/> 到達度自己評価
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（IT環境）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（IT環境）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業の課題などにおける教員からの フィードバック）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業の課題などにおける教員からの フィードバック）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（教員の分かりやすさ）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（教員の分かりやすさ）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業のおもしろさ）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業のおもしろさ）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業の質）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（授業の質）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（図書の充実）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（図書の充実）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（入学時に望んでいた勉強が出来るか）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（入学時に望んでいた勉強が出来るか）
	<input type="checkbox"/> 学生満足度（就職先）	<input type="checkbox"/> 学生満足度（就職先）
<b>3. 貴学の学修成果の評価に関して以下にご回答ください。</b>		
<b>3-1. 上記以外に貴学として使用している評価方法・評価指標がありますか？</b>	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ はいの場合→内容（自由記述）	
<b>3-2. 過去に検討したが採用を断念した評価方法・評価指標がありますか？</b>	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ はいの場合→内容（自由記述）	
<b>3-3. 学修成果を評価する専門部署・専門プロジェクト等がありますか？</b>	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ はいの場合→内容（自由記述）	
<b>3-4. 学修成果の評価結果を大学の授業カリキュラムにFeedbackする仕組みがありますか？</b>	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ はいの場合→内容（自由記述）	
<b>3-5. 学修成果の把握・評価に関して貴学で認識している課題や問題点があればお答えください</b>	内容（自由記述）	
<b>3-6. 学修成果の測定・評価の営為を教育の改善・向上につなげていく上で、認証評価機関にはどのようなことを期待するかお答えください</b>	内容（自由記述）	
<b>4. 訪問調査へのご協力</b>		
本調査業務の一環として、数法人のご担当者様に対し訪問調査（2時間程度を予定）を実施させていただく予定です。		
当該調査について、貴学にご協力いただくことは可能ですでしょうか	<input type="radio"/> 訪問調査に協力可能 <input type="radio"/> 実施依頼があれば、前向きに検討 <input type="radio"/> 訪問調査への対応は不可	
御協力いただきありがとうございました。		
以上		

企業向けアンケート

平成25年度 文部科学省 先導的大学改革推進委託事業 「学修成果の把握と学修成果の評価についての具体的方策に関する調査研究」アンケート	
<b>本調査票へご回答いただく上での注意事項</b> 設問及び注釈をご確認の上、ご回答いただきますようお願いいたします。 <input type="text"/> グレーの部分が回答欄となります。	
<b>1. 全般的事項</b>	
1-1. 法人名をご記入ください。	
法人名	<input type="text"/>
1-2. ご担当者様の連絡先などをご記入ください。	
部署名	<input type="text"/>
役職	<input type="text"/>
氏名	<input type="text"/>
電話	<input type="text"/>
e-mail	<input type="text"/>
1-3. 貴法人のプロフィールについてお答えください。	
所在地（都道府県）※1	<input type="text"/>
上場又は非上場	<input type="radio"/> 上場 <input type="radio"/> 非上場
業種	<input type="checkbox"/> 1. 農業 <input type="checkbox"/> 2. 林業 <input type="checkbox"/> 3. 漁業 <input type="checkbox"/> 4. 鉱業 <input type="checkbox"/> 5. 建設業 <input type="checkbox"/> 6. 製造業 <input type="checkbox"/> 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 <input type="checkbox"/> 8. 情報通信業 <input type="checkbox"/> 9. 運輸業 <input type="checkbox"/> 10. 卸売・小売業 <input type="checkbox"/> 11. 金融・保険業 <input type="checkbox"/> 12. 不動産業 <input type="checkbox"/> 13. 飲食店、宿泊業 <input type="checkbox"/> 14. 医療、福祉 <input type="checkbox"/> 15. 教育、学習支援業 <input type="checkbox"/> 16. 複合サービス事業 <input type="checkbox"/> 17. サービス業 <input type="checkbox"/> 18. 公務 <input type="checkbox"/> 19. その他 その他の場合→内容（自由記述）
従業員数（人）※2	<input type="text"/>
※1 本社所在地をご記入下さい。	
※2 直近年度決算日の数値をお答え下さい。	

企業向けアンケート

<b>2. 学修成果について、貴法人としてあてはまるものにご回答ください</b>	
<b>2-1. 大学卒業者に求める能力</b>	
<b>大学卒業者について、どのような能力を身につけることを重視しますか。(最大5つまで)</b>	
<b>学生の能力</b>	<input type="checkbox"/> 一般教養力
	<input type="checkbox"/> 批判的思考力
	<input type="checkbox"/> 問題発見能力
	<input type="checkbox"/> 問題解決能力
	<input type="checkbox"/> 英語力
	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション・コミュニケーション能力
	<input type="checkbox"/> 情報収集・情報分析力
	<input type="checkbox"/> 読解力
	<input type="checkbox"/> 創造的思考力
	<input type="checkbox"/> 異文化理解力
	<input type="checkbox"/> 論理的思考力
	<input type="checkbox"/> リーダーシップ力
	<input type="checkbox"/> 文章力
	<input type="checkbox"/> 専門知識力
	<input type="checkbox"/> 専門技術力
	<input type="checkbox"/> IT力
	<input type="checkbox"/> 協調力
	<input type="checkbox"/> 数理能力
	<input type="checkbox"/> 多角的な視点でものごとを考える能力
	<input type="checkbox"/> その他
<b>2-2. 大学が重視すべき学修成果の評価指標</b>	
<b>大学はどのような指標を重視して学修成果の評価・改善に取り組むべきだと思いますか。</b>	
<b>教育環境</b>	<input type="checkbox"/> アカデミック・アドバイザー制度
	<input type="checkbox"/> ティーチング・アシスタント制度
	<input type="checkbox"/> 履修指導の充実化
	<input type="checkbox"/> 教育体系の可視化
	<input type="checkbox"/> 身につけるべき能力の可視化と履修科目との関連付け
	<input type="checkbox"/> キャップ制の導入（※その場合の年間履修登録単位数の上限は何単位か）
	<input type="checkbox"/> オフィスアワー制度の実施
	<input type="checkbox"/> アドバイザー制度の実施
	<input type="checkbox"/> 担任制の実施
	<input type="checkbox"/> 授業における課題やテストの工夫
	<input type="checkbox"/> アクティブラーニング（ディベート、ディスカッションなど）
	<input type="checkbox"/> 問題解決型教育の実施
	<input type="checkbox"/> 少人数教育
	<input type="checkbox"/> 授業におけるWEBの活用
	<input type="checkbox"/> 授業外学修時間数の把握
	<input type="checkbox"/> 先進的プログラム（GPやCOEプログラムなど）の数
	<input type="checkbox"/> ゼミ（研究室）所属率
	<input type="checkbox"/> 学級の数
	<input type="checkbox"/> 学生1人あたり図書数
	<input type="checkbox"/> 学生一人あたりの教育研究経費支出額
	<input type="checkbox"/> 学年別学修時間
	<input type="checkbox"/> 教育研究充実度（総支出等に占める教育研究費比率）
	<input type="checkbox"/> 教員1人あたり学生数
	<input type="checkbox"/> 施設老朽化比率
	<input type="checkbox"/> 図書館の利用頻度
	<input type="checkbox"/> GPA

企業向けアンケート

<b>学位取得</b>	<input type="checkbox"/> 卒業論文
	<input type="checkbox"/> パートタイム学生の卒業率
	<input type="checkbox"/> 進級者数、留年者数、大学院への飛び級者数の年次変化
	<input type="checkbox"/> 卒業者数
	<input type="checkbox"/> 卒業率
	<input type="checkbox"/> 退学率
	<input type="checkbox"/> 休学率
	<input type="checkbox"/> 留年率
	<input type="checkbox"/> 大学院進学率
	<input type="checkbox"/> 大学院入試合格率
	<input type="checkbox"/> 単位取得率
	<input type="checkbox"/> 博士授与数
	<input type="checkbox"/> 標準修業年限内卒業率
	<input type="checkbox"/> 編入率
	<input type="checkbox"/> 成績証明書
<b>国際性</b>	<input type="checkbox"/> 海外留学体験プログラム
	<input type="checkbox"/> 留学生数・割合
	<input type="checkbox"/> 英語コースの開設数
	<input type="checkbox"/> TOEIC、TOEFL等の語学試験点数
	<input type="checkbox"/> 海外留学者数、海外留学割合
	<input type="checkbox"/> 単位互換制度受入大学数
<b>資格取得</b>	<input type="checkbox"/> (歯科) 医師、薬剤師等の国家試験合格者数
	<input type="checkbox"/> 教職単位取得者数
	<input type="checkbox"/> 教員免許状取得数
	<input type="checkbox"/> 司法、公認会計士、公務員試験合格等資格試験合格者数
	<input type="checkbox"/> JABEE (日本技術者教育認定機構) 取得者数
<b>就職</b>	<input type="checkbox"/> インターンシップ参加学生数
	<input type="checkbox"/> 海外企業へのインターンシップ参加学生数
	<input type="checkbox"/> SPI試験成績
	<input type="checkbox"/> 求人者数
	<input type="checkbox"/> 就職率
	<input type="checkbox"/> 卒業後6カ月後の就職先分野
	<input type="checkbox"/> 卒業後の進路
	<input type="checkbox"/> 退職後の再就職率
<b>社会力</b>	<input type="checkbox"/> 30歳年収
	<input type="checkbox"/> 卒業40カ月後の給与データ
	<input type="checkbox"/> 管理職への昇格率
	<input type="checkbox"/> 社長数
	<input type="checkbox"/> 上場企業役員数
	<input type="checkbox"/> 卒業6か月後の給与金額
	<input type="checkbox"/> グローバル力量調査 (海外居住/海外インターンシップ経験、TOEIC等の点数等)
	<input type="checkbox"/> 部活動の実施
<b>満足度</b>	<input type="checkbox"/> CSR活動の実施
	<input type="checkbox"/> 授業評価 (アンケート) による授業理解度
	<input type="checkbox"/> 学部別志願者数の推移
	<input type="checkbox"/> 到達度自己評価
御協力いただきありがとうございました。	
以上	